

# 第三国集団研修研修管理調査団報告書

— 千リ，家畜繁殖 —

昭和61年12月

国際協力事業団  
研修事業部

研 管

J R

86-57

A  
B  
D

ANY



# 第三国集団研修研修管理調査団報告書

— 子リ，家畜繁殖 —

JICA LIBRARY



1026152171

昭和61年12月

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団		
受入 月日	'87.6.26	704
登録 No.	16582	87.3 TAD

## は　じ　め　に

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れ、より現地事情に適合した技術・知識の移転を図り、これにより開発途上国間協力の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入れ事業を実施できるよう協力することを目的としている。昭和49年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和60年度には15ヶ国において22コースを実施するに至っている。

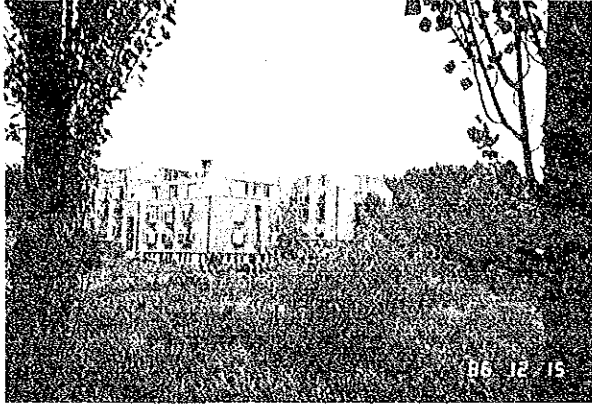
本報告は、昭和61年4月、チリ家畜繁殖第三国研修実施の為のR/Dが署名されたことを受け、昭和61年11月10日から同年12月13日まで実施された、同第三国研修（第一回）の評価調査をまとめたものである。

本件の実施についてご協力を賜わった外務省、農林水産省、在チリ大使館並びに派遣専門家の各位に深く感謝の意を表する次第である。

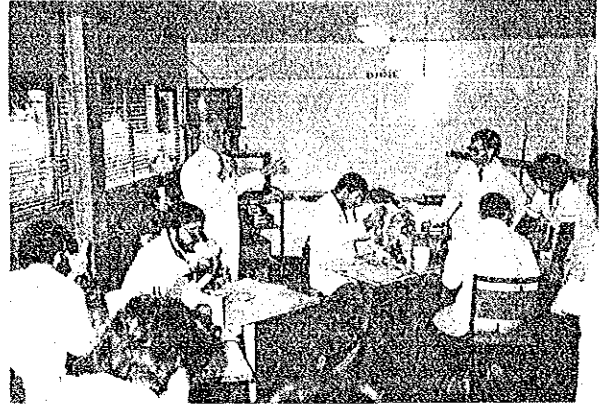
昭和61年12月

研修事業部長





研修員宿泊ホテル  
「ホテル・テハ」



実習風景



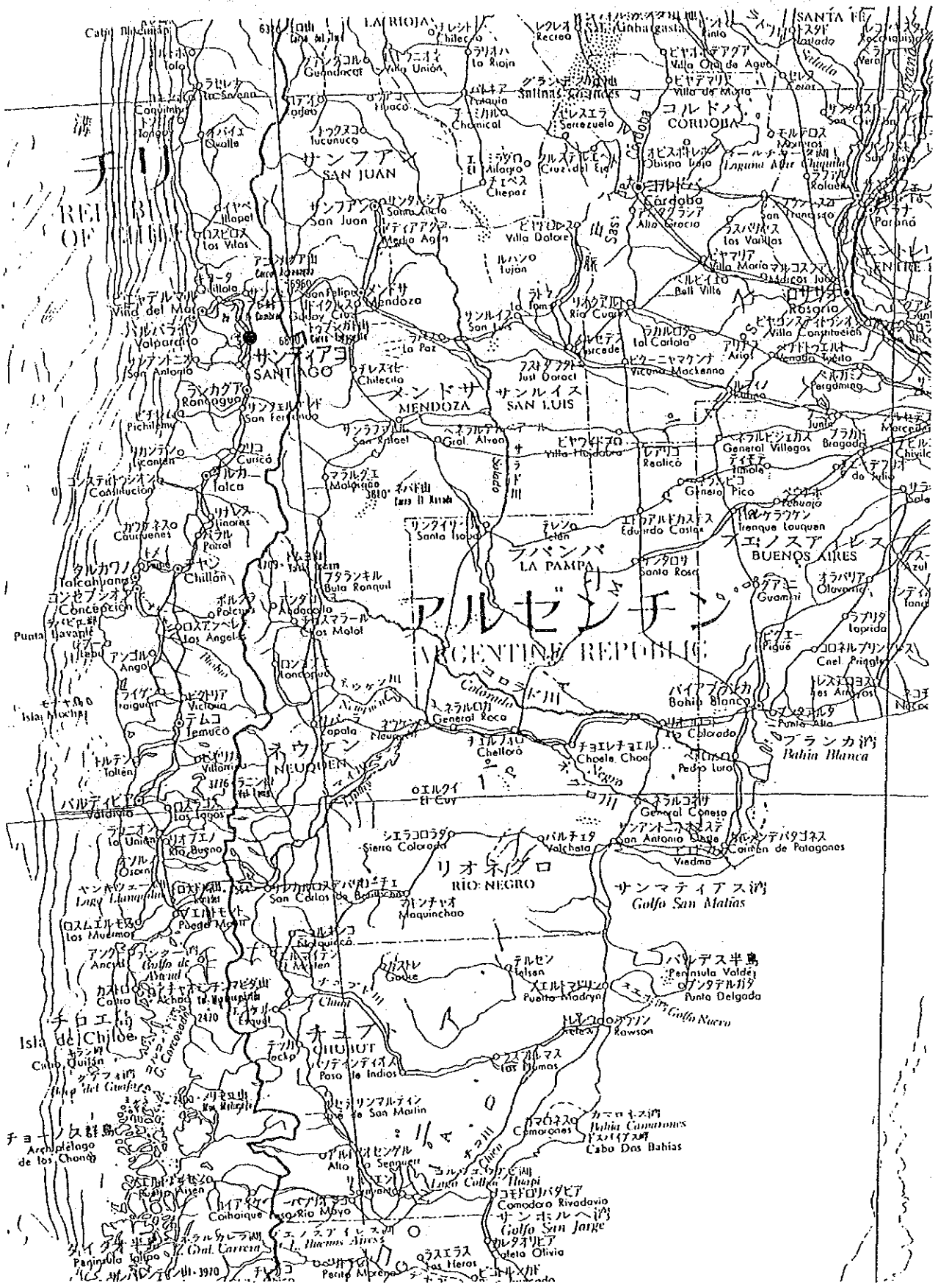
協議風景

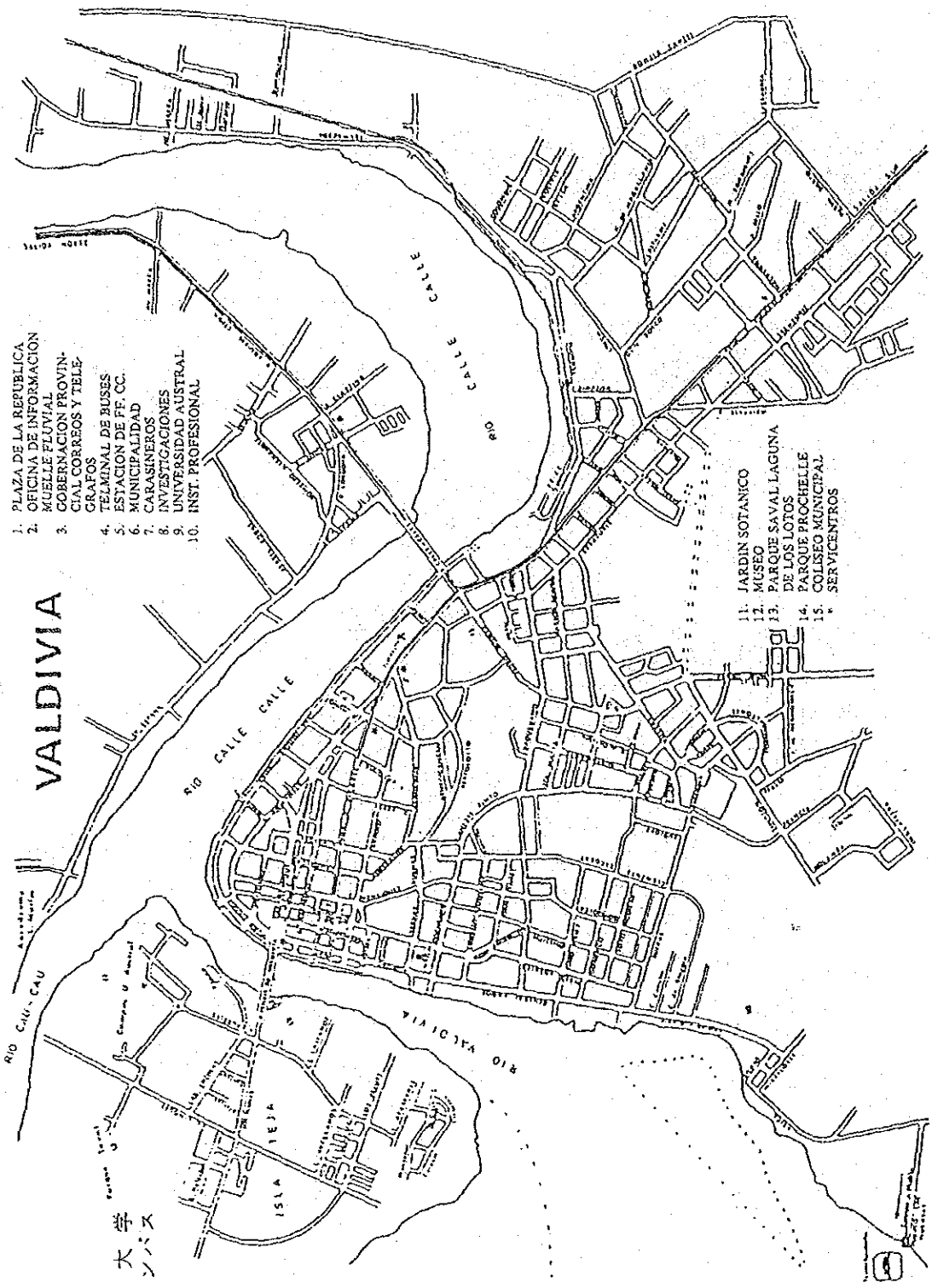


ミニッツ交換風景









# VALDIVIA

1. PLAZA DE LA REPUBLICA
2. OFICINA DE INFORMACION
3. MUSEO FILIAL
4. GOBERNACION PROVINCIAL
5. CORREOS Y TELEGRAFOS
6. TERMINAL DE BUSES
7. ESTACION DE FF. CC.
8. MUNICIPALIDAD
9. CARASINEROS
10. INVESTIGACIONES
11. UNIVERSIDAD AUSTRAL
12. INST. PROFESIONAL

13. JARDIN BOTANICO
14. MUSEO
15. PARQUE SAVAL LAGUNA DE LOS LOTOS
16. PARQUE PROCELLE
17. COLISEO MUNICIPAL
18. SERVICIOS

アウストラル大学  
 イスラ・テハ キャンパス

# 目 次

はじめに	
写 真	
地 図	
第1章 調査団の派遣	1
1-1 派遣の経緯と目的	3
1-2 団員構成	4
1-3 調査日程	4
1-4 主要面会者	5
第2章 調査結果の要約	7
第3章 研修概要	11
3-1 研修運営管理	13
(1) 受入手続	13
(2) 運営管理	14
(3) 生活環境	14
3-2 カリキュラム	15
3-3 講 師	15
第4章 研修評価	17
4-1 評価方法	19
4-2 研修員による評価	19
(1) 本コースについての総合的評価	19
(2) 研修プログラム	20
① 研修期間	20
② 研修レベル	21
③ 研修テーマ	21
(3) 研修の運営管理	21
① 運営全般	21
② 教授法	22
③ 研修言語	22
④ 研修施設	22
⑤ 研修用教材	22

⑥ 自国で得た本研修に関する情報	22
⑦ チリにおけるオリエンテーション	23
(4) 本研修で学んだ技術と知識の適用	23
(5) 講義及びテーマ	23
(6) 本研修コースについての期待	24
(7) チリにおける生活環境	24
① 宿 舎	24
② 交 通	25
③ 食 事	25
④ 医 療	25
⑤ 滞在費等	25
⑥ レクリエーション活動	25
(7) チリ滞在中の最も深刻な問題	25
(8) 次回研修への提言、コメント	25
4-3 受入先による評価	26
- アウストラル大学(チリ国第三国研修家畜繁殖学コースのカウンターパート) との協議 -	
4-4 調査団の所見	29
- 総合的評価と今後の対処方針	
(1) 研修計画全般	30
(2) 研修期間	30
(3) 研修レベル・カリキュラム	30
(4) 研修の時期	30
(5) 研修員数	30
(6) 研修対象国	31
(7) 研修員の募集	31
(8) 研修員の選考	31
(9) 実施体制	31
(10) 日本側の協力	32
(11) その他	32
ま と め	33

参 考 資 料 .....	35
1 Minutes of Meeting .....	37
2 質問票回答集計 .....	42
(参考) 質問票(英文)及び回答一部の分布割合 .....	46
3 入手資料リスト .....	54
4 参加研修員リスト .....	55
5 関連現地新聞記事 .....	56
6 終了証書 .....	58
7 第一回研修応募者リスト .....	59
8 第三国研修(1986年)カリキュラム .....	64



## 第1章 調査団の派遣





## 第1章 調査団の派遣

### 1-1 派遣の経緯と目的

(1) チリ国に対する獣医畜産面の技術協力は、1981年に家畜人工授精専門家の派遣要請がなされ、これを受けて1982年に高嶺浩専門家（東京農工大学名誉教授）を派遣したことに始まる。

同専門家は同年4月から3カ年に亘り、南チリ（アウストラル）大学（Universidad Austral de Chile, UACHと略称）に派遣され、獣医学部客員教授として付属家畜人工授精センター（CIAと略称）に常駐し、同施設ならびに学部家畜繁殖学研究室（IRAと略称）における業務および教育・研究に対する技術協力に従事し、1985年4月に任期を満了して帰国した。引続き同年6月から關守竜雄専門家（大阪府立大学名誉教授）が後任として派遣され現在に及んでいる。

(2) この間、1984年にUACHから第三国研修（家畜繁殖学）の要請がなされたが1985年度案件として採択されるには至らなかった。1985年4月高嶺専門家帰国報告において提言された研究協力の案件化について直ちにJICA（派遣事業部）による検討が進められ、農林水産省（経済局国際協力課、農林水産技術会議）ならびに外務省との協議を重ね、同年10月に研究項目、内容、実施計画等の事前協議のため事前調査団が派遣された。

一方、第三国研修についても検討が重ねられていたが、1986年1月の関係各省会議において事前調査に着手する方針が決定され、同年3月に事前調査団が派遣され、UACHに対する研究協力に関連し、その派遣専門家が第三国研修にも関わることとして実施計画が練られた。

実施協議については1986年4月に研究協力に関するR/D署名のための調査団が派遣され、研究協力と第三国研修の両案件が同時に協議され、R/Dの署名が行われた。

(3) 本研修管理調査団は、コースの終了時期に合わせ、

- ① 本コースの参加研修員の評価を調査し、意見、提言を聴取すること
- ② 受人先のアウストラル大学から本研修についての評価を調査し、あわせて要望、提言等を聴取し、さらに改善すべき点等について協議、検討すること
- ③ これらの評価、検討にもとずき、大学側と本コースの継続について確認し、次回コースの実施に係わる諸条件、すなわち、割当国、受入研修員数、参加資格要件、研修期間、カリキュラム、必要経費等についての協議を行うこと

を目的として派遣されたものである。

1-2 団員構成

団 長	倉 持 寛 子	国際協力事業団筑波インターナショナルセンター、研修課長
協力企画	森 山 浩 光	農林水産省経済局国際部国際協力課、海外技術協力官
研修運営	久 野 貴 一 郎	国際協力事業団研修事業部管理課、課長代理

1-3 調査日程

月 日	曜日	行 程	訪 問 先 等
12. 10	水	成 田 発	
12. 11	木	サンティアゴ着	大使館表敬、打合せ J I C A事務所長との打合せ
12. 12	金	サンティアゴ発 バルディビア着	アウストラル大学学長表敬
12. 13	土		研修員とのエバリュエーションミーティング 閉講式出席 家畜人工授精センター視察
12. 14	日		資料整理、近郊牧場視察
12. 15	月		チリ大学側とエバリュエーションミーティング及び協議 宿泊施設（ホテル・テハ）等視察 乳科学技術センター他視察
12. 16	火	バルディビア発 サンティアゴ着	ミニッツ署名
12. 17	水		大使館報告 J I C A事務所報告
12. 18	木	トロント着	
12. 19	金	トロント発	
12. 20	土	成 田 着	

1-4 主要面会者

○印 M/M協議出席者

(1) UA CH (南チリ大学)

Jcime Ferrer Fouga  
Julio Flores V.  
Fernando Lara Silvia  
Gregorio Papic Garcia  
Bernardo Fraser  
Juan J. Ebert K.  
Edmundo Butendick B.  
Jorge E. Correa  
Jorge Ehrenfeld v H.  
C. Humbert Del Campo  
Marcelo R. Del Campo  
Renato Gatica G.  
Pedro Saelzer G.  
Claus Hellemann B.  
Jorge Oltra C.  
Juan S'anchez P.  
Ver'onica de la Barra

藺守竜雄  
高嶺 浩  
杉江 侖

(2) 日本大使館

塙 哲雄  
御前孝仁  
石原圭子

(3) J I C Aチリ事務所

加藤 進

学長  
副学長(学術担当)  
副学長(財政担当)  
事務局長

○獣医学部長  
副学部長  
○家畜繁殖学研究室主任教授  
○家畜人工授精センター所長兼教授  
○家畜繁殖学研究室教授  
○同 上  
○同 上  
同 上  
○C I A 研究員兼教授  
○同 上  
C I A 職員  
同 上  
○J I C A 長期派遣専門家  
○J I C A 短期派遣専門家  
○J I C A 短期派遣専門家

参事館  
一等書記官  
一等書記官

所長



## 第2章 調査結果の要約



## 第2章 調査結果の要約

本コースの参加研修員18名及び受入先のオーストラル大学（獣医学部長他関係者）に本コースの終了直後に本研修についての評価を調査、意見を聴取した。

本調査は質問票に対する回答と面接（評価会）により行ったが、調査結果の要約は次のとおりである。

1. 本研修は非常に有益であった。特に新しい知識を得られたこと、既知の知識のブラッシュアップ及び現場で応用する機会を得られたことで貴重なものであり、得た知識と技術はそのまま直ちに自国で活用できる。来年度以降もぜひ本研修コースを継続実施してほしい。
2. 期間、レベルとも適当であるが、質疑応答、討論、実習の時間を増やしてほしい。
3. 研修内容は広範囲にわたりすぎるので、整理し、できれば専門グループ別に各専門テーマについて深く研修できるカリキュラムを希望する。
4. 運営、管理、教授法、教材、施設ともに優れており、円滑かつ効率的にコースは運営され、適確な指導法と教材が事前に用意されていたことにより授業は完全に理解吸収できた。
5. 研修言語はスペイン語で行われたが、これはブラジルの参加者1名を除く全研修員の母国語であり、また教える側の母国語であったことも理解、コミュニケーションを助けた大きな要素であった。
6. 募集手続及び渡航手続には各国ともかなりの時間が必要なので、募集と合格通知はできる限り早い時期に行ってほしい。
7. 宿舍、交通、食事等生活環境についてはチリ側が十分配慮し提供したことにより、快適で不便はなかった。
8. 滞在費については過半数の9名が不十分であったとして次回コース研修員に対しては増額するよう提言している。

また、チリ国研修員に対する滞在手当が支給されないことを研修員も大学側も問題としている。

9. その他の点については、気候の変化、寒さ、食事の違いが苦痛であったとする者各1名がいたが、他に大きな問題はなかった。
10. 大学側も本研修コースの成果は大きいとして第1回コースが成功裡に終了したことに満足の意を表し、日本側の協力を感謝するとともに、次年度以降もぜひ本コースを継続実施したいと強く希望し、日本側の協力を要望している。

研修員の評価については今後さらに分析、検討し、第2回コースについて可能な範囲内で調整、改善する意向を示している。

11. 次回コースの実施方針については、第1回コースの評価結果を本調査団とともに検討協議した結果、若干の改善を行うが、本年度とほぼ同様の方針で実施することとした。

すなわち10月に開始し、5～6週間の期間、研修員数18名を対象に実施する。対象国（本年度は9カ国）は、本年度は応募が遅れ参加できなかったベネズエラを含める方向で検討し、さらにスペイン語圏の中米諸国を新規に加えることも検討する。経費等については別途調査、協議を行うこととした。

日本側は本研修コースの指導陣強化のため、1987年度はチリ側カウンターパート3名をJICA研修員として受入れる。

上記協議結果についてはミニッツを作成し、本調査団長とオーストラル大学獣医学部長との間でミニッツの署名交換を行った。



### 第3章 研 修 概 要



## 第3章 研 修 概 要

### 3-1 研修運営管理

#### (i) 受入手続

##### ① G・I (ジェネラルインフォメーション) の作成と送付。

本第三国研修の開始に先立ち1986年5月末にチリ側でG・Iの印刷を完了し、同国外務省及び在チリ各国大使館を通じて割当国にG・Iが送付された。ただし、チリ側は上記ルート以外にもオーストラル大学独自のルートをもって送付した事例もあった。

##### ② 要請書の接受と選考

本研修コースの締切りは当初9月10日を予定していたが、これを9月20日までの10日間の延長を行ない、その結果55名の応募があった。応募締切り後も相当数の応募があり、最終的には応募者総数は80名にした。(表参照)

本研修国別応募者総数

国 名	応 募 数 (うち締切後到着分)	
アルゼンティン	27	( 7 )
ボ リ ビ ア	7	( 2 )
ブ ラ ジ ル	2	( 0 )
チ リ ー	7	( 3 )
コ ロ ン ビ ア	11	( 3 )
エ ク ア ド ル	6	( 1 )
パ ラ グ アイ	4	( 3 )
ペ ル ー	6	( 2 )
ウ ル グ アイ	8	( 0 )
ベ ネ ズ エ ラ	2	( 2 )
総 計	80	( 20 )

選考過程については、JICAチリ事務所の指導の下に国別バランスに配慮しつつ、オーストラル大学獣医学部長、教授及び派遣専門家が三者協議の上決定した。なお、選考過程で家畜繁殖学研究室 ( Instituto de Reproducion Animal : IRA ) と家畜人工授精センター ( Centro de Inseminacion Artificial : CIA ) との間で見解を異にした場合は3人の選考委員が決定した合

##### ③ 受入回答

アウストラル大学側では、事前に応募者の来「チ」の可能性を調査の上15人に絞った。しかしながら、急に来「チ」出来ない場合も想定して、若干の代替者を予め選考していた。

④ 航空券の送付

本邦における研修員受入と同様にPTAで送付した。

⑤ 保 険

受入研修員の研修中における病気等に備えるため、本邦におけるそれと同様な傷害保険をCruz Blanca 保険会社と締結実施した。

契約内容は、

(ア) 保険期間：到着日より離「チ」後1日。

(イ) 給付内容

死亡保険金：\$ 300万（病死は含まない）

入 院 費：100%給付

治 療 費：70%給付

(ウ) 保 険 料：\$ 81,970 / 15人

(エ) 実施方法：メディカルカード交付

⑥ 入出国手続及び空港送迎

受入研修員が社会的に同質であり、かつ共通の言語（スペイン語）という基盤もあり、ある面では本邦で受入れる場合よりも円滑に行なわれた。

(2) 運営管理

① 経理処理

研修員の航空賃、日当、宿泊料については、チリJICA事務所が支給した。また、JICA側が負担した研修諸費については、チリ側はバンコ、コンセプション、バルディビアに公金口座を設け学部長が責任者となって管理しており適切であった。

② コースコーディネーション

C、H、Delcampo、R. Gatica、G、J、Oltraca、G、J、Ehrenfeld、V. Hの各教授及び高嶺、杉江、藪守の三専門家が同行して牧場をはじめ、牛乳、肉工場を3泊4日の日程で研修旅行を行なった。

③ 終了証書

チリ側で作成し、閉講式当日に加藤チリ事務所長より授与された（P 58参照）。

(3) 生活環境

① 宿泊施設

アウストラル大学構内のホテル、テハを使用した。同ホテルは全室バス、トイレ付きで各部屋は防音壁で仕切られており、その広さもシングル・ルーム24㎡、28㎡の2タイプが

あり、研修員用としては十分なものであった。

#### ② 厚生活動及び施設

厚生活動の一環として、研修期間中に、バーベキューパーティーと観光川下りを行なった。また大学構内には、バスケットボール、ミニサッカー等のできる体育館があり日常の厚生活動用としては十分といえる。

#### ③ 交通手段

家畜人工授精センター、牧場等研修先への移動にあたっては、大学のスクールバスを利用した。

#### ④ 日 当

一日当たり10ドルを支給しているが、朝食250ペソ、昼夜食500～600ペソと大学構内の食堂だけで済ませるには十分であるが、同食堂のメニューは内容的にも量的にも十分なものといえないことから、研修員は週に何回かは外食をしており、大学側は一日当たり15ドルを目途に増額してもらいたい旨、要望してきた。

### 3-2 カリキュラム

本研修は1986年11月10日から12月13日までの34日にわたり実施された。そのカリキュラム内容の詳細は(P 64～73)に添付した。

### 3-3 講 師

本研修に係る講師はアウストラル大学獣医学部、CIA(人工授精センター)の各教授および日本から派遣された専門家が対応したが、チリ側の講師リストは次のとおりである。

現 地 講 師 リ ス ト

①番号	②氏 名	③性別	④年齢	⑤担 当 講 義	⑥所 属
1	CORREA, J. E.	男	44	繁殖内分泌学	家畜繁殖学研究室 主任教授
2	DEL CAMPO H.	"	46	雌性臨床繁殖学、繁殖病理学、繁殖障害論、研修生シンポジウム座長	同 上 教授
3	DEL CAMPO M.	"	41	バイオテクノロジー	同 上 "
4	EBERT J.	"	57	産 科 学	同 上 獣医学部長 "
5	GATICA R.	"	44	雌性繁殖生理学及び生殖器病理学 性周期の同期化	同 上 "
6	SAELZER P.	"	47	産 科 学	同 上 "
7	EHRENFELD J.	"	48	チリにおける家畜人工授精 雄性性機能	家畜人工授精センター 所 長 教 授
8	HELLEMANN C.	"	53	精液に関する生理学及び人工授精に おける精液検査、処理	同 上 研究員 "
9	OLTRA J.	"	40	雄性繁殖病理学 人工授精	同 上 " "
10	SANCHEZ J.	"	30	牛体審査	同 上 所 員
11	De Veer, G.	"	-	繁殖牛産乳能力検定	畜産技術研究室
12	Herve, M.	"	-	家畜人工授精センターにおける 試験の組織	"
13	Stehr, W.	"	-	栄養及び生殖能力	"
14	Stolzenbach, G.	"	-	搾乳調整の根拠	"
15	Vargas, L.	"	-	産科解剖学	"
16	Ahumada, F.	"	-	出産時の麻酔及び鎮静剤	家畜病理学、薬理学 研究室
17	Bustos, O.	"	-	子宮の薬理学	"
18	Caballero, E.	"	-		"
19	Cubillos, V.	"	-	新生動物の先天的病理	"
20	Fiedler, H.	"	-		"
21	Wittwer, F.	"	-	新陳代謝特性及び動物繁殖	畜産臨床化学研究室
22	Kruze, J.	"	-	乳房の伝染病	細菌学研究室
23	Reinhardt, G.	"	-	ウィルス性伝染病	"
24	Riedemann, S.	"	-	ウィルス性伝染病	"
25	Rojas, X.	"	-	細菌性伝染病	"
26	Zamora, J.	"	-	細菌性伝染病	"

## 第4章 研 修 評 価





## 第4章 研 修 評 価

### 4-1 評価方法

(1) 総合評価を行うためには、受講者である研修員、受入先であるチリ国アウストラル大学、講師陣に参加している日本人専門家、大使館及び在外事務所長等の評価を調査分析することが必要であると判断される。

本調査団は主として研修員及びア大学の評価を調査し、追って帰国し報告を行う専門家、別途常時本邦と本件について報告連絡を行っている在外事務所及び大使館に対しては調査結果を報告し、意見交換を行った。

(2) 研修員による評価を調査するために、あらかじめクエスチョネアを作成し、研修員に配布、回答の記入を依頼した。この結果をもとに、研修最終日の12月13日に研修員との評価会を開催し、研修員から意見を聴取した。

(3) 受入先による評価については、研修員による評価結果を報告し、大学側の評価及び意見を聴取し、さらに今後改善すべき点及び、次年度のコースの方針などについて協議を行った。

尚、この評価会には派遣中の日本人専門家3名の同席を得た。

### 4-2 研修員による評価

4-1. に述べたとおり、調査したい事項についてあらかじめクエスチョネアを作成し、研修員に配布、これに対する研修員の回答をとりまとめ検討した後、12月13日(10時~11時30分)に本調査団と研修員との間で評価会を開催した。

評価会には全研修員18名(第三国研修員15名、チリ国研修員3名)が出席し、派遣中の藺守、高嶺、杉江の3専門家が同席した。

開催にあたり、本調査団団長から研修員に対して挨拶及び団員の紹介を行い、本調査団の目的及び評価会の主旨を説明、協力を依頼するとともに、先に依頼したクエスチョネアの回答に対する研修員の協力に感謝の意を表した。

評価結果を以下に記す。また、クエスチョネアに対する研修員の回答の集計は別添(P42~53)のとおりである。

#### (1) 本コースについての総合的評価

クエスチョネアには17名が非常に有益、1名が有益と回答、評価会では研修員全員から本コースは得るところが大きく、家畜繁殖技術の向上に非常に役に立つという高い評価を得、本コースに参加できたことに対する満足の意と感謝の意が表明された。

特に、新技術の紹介と既習の知識のブラッシュアップ、適用実習の多く含まれている点で貴重な研修コースであると評価が高い。

従って、1986年度の第1回コースは成功裡に終了したということが確認され、来年度以降も本研修を継続実施することに全員が賛成するとともに、ぜひ実現してほしいと強い要望が出された。

## (2) 研修プログラム

### ① 研修期間

殆んどの研修員（13名）が5週間の研修期間は適当な長さであると考えているところ、2名（アルゼンティン、ペルー）が短か過ぎる、3名（チリ、アルゼンチン、ペルー）が長過ぎると同等している。

短か過ぎると考える理由は、講義後質疑応答及び討論の時間が殆んどなかったためであり、今後のコースにはこの点の配慮を希望している。

一方、長過ぎると答えた理由は、本人の専門外の科目については関心がないので長いと感じたとの説明があった。

講義、実習、討論、見学のそれぞれについての時間については長過ぎると考える者は全くなく、殆んどの者が適当と回答しているが、短か過ぎたと考える者が講義について2名、実習について5名、討論については全体の3分の1を越える7名がいた。評価会においては、質問票に「適当」と記入した研修員も全員が、「講義後に質疑応答の時間が必要である」、「討論の時間を設けてほしい」、「実習時間を相対的に増やしてほしい」と要望している。

さらに、時間配分については、カリキュラムの内容のバランスに検討が及び、1. 期間のわりに内容が広範囲にわたり過ぎる。 2. 研修員は獣医師としての経験者であることから基礎科目の割合を減らし、実習時間を増やす。 3. 研修員を専門分野別のグループに分け、専門テーマについて深く研修する期間を設ける。またはコース全体の研修テーマを胚移植とか病理、繁殖のように限られたものにしてはどうか等の意見が出された。これらの要望に対応するには研修期間の延長が必要であると考えているのかとの質問に対し、長期間仕事を離れるのは難しいので期間の延長は希望しない。従って、本年度コースを同期間の中で上述の点を考慮し、研修内容のバランスを調整できれば理想的であるとコロンビア、ウルグアイの研修員が回答し、その他の研修員もそれぞれ意見を述べ賛意を示した。

結論として、研修を受ける者にとっては研修期間は5週間程度が適当であり、大巾に延長することを検討する必要はないと判断される。

質疑応答及び討論の時間を設けることは、研修を一方通行でなくて受ける側の参加意識を高め、かつ研修内容をその場で理解把握せしめることによる次の段階へのステップアップに欠かせない重要な要素となるので、これらの時間は多少研修期間の延長を伴うとしてもぜひ設ける必要があると考えられる。この点については、大学側との会議において十分協議した結果、大学側もたしかにその必要性があると思うので、次回は考慮したいとしている。

## ② 研修レベル

18名中15名が本研修のレベルは適当であったと考えるが、3名(アルゼンティン、ペルー、ボリビア)は初歩的なものであったと回答している。

講義のレベルについては、15名が適当、1名(ブラジル)が高度、2名(アルゼンティン、ペルー)が初歩的と回答した。

実習のレベルについては、16名が適当としているが、2名(ブラジル、ペルー)は初歩的と答えている。

いずれについても、初歩的と答えている理由は、本コースのプログラムには広範囲にわたる多くの科目を盛り込んであるため、各科目は短時間の紹介程度に限られるので、研修員各自の専門分野については初歩的過ぎると感じていることによる。

## ③ 研修テーマ

### ④ 最も興味のあるテーマ

雌の繁殖 17名、産科 10名、繁殖手段 8名、胚移植 7名、雄の繁殖(人工授精を含む) 4名、生殖器病理 3名、内分泌 2名、育種 2名、飼料・栄養 2名

研修員の専門により興味は異なるが、雌の繁殖には殆んど全員(17名)が興味を示し、他に産科(10名)、繁殖手段(8名)、胚移植(7名)に興味集中している。

### ⑤ 本研修に加えてほしかったテーマ

バイオテクノロジー、薬理、病理のそれぞれを各1名が希望している。

他に、胚移植及び生殖生理の研修時間の延長を希望する者が1名あった。

### ⑥ 不要と思われるテーマ

15名は本コースのカリキュラムのすべての研修テーマは必要なものばかりであり、不要と思うものは全くないと答えている。一方、自己の専門分野について主として研修したいと希望する者は専門外のテーマには興味がないので、次のものは不要と回答した。

講義：微生物学 1名(ペルー)、代謝 1名(ブラジル)、生殖器病理 1名(ペルー)、

実習：微生物学 1名(ペルー)、周産期 1名(アルゼンチン)、胎子摘出術(長過ぎる) 1名(ウルグアイ)、人工授精 3名(アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル)

見学：人工授精 2名(アルゼンチン、ウルグアイ)

## (3) 研修の運営管理

### ① 運営全般

研修員全員が本コースの運営管理は優れている(優れている 14名、良い 4名)として、本コースが開講以来終始円滑にかつ効率的に運営されてきたことと研修員に対する親切的な配慮を挙げ、受入先のオーストラル大学とこれを支援するJICAの両方に賞賛の言葉を述べている。

## ② 教授法

12名が優れている、6名が適正であったとして、全研修員が本コースの指導陣の教授法を高く評価している。特に指導教授全員が授業前にテキストを用意していたこと（エクアドル他）、講義の平明さ（チリ）、教える側の熱意と奉仕の精神（コロンビア）など優れた点を次々と挙げ、大学側の努力に対する研修員の敬意と感謝の言葉が述べられた。

## ③ 研修言語

全研修員が問題はなかったと回答している。

ブラジルの1名を除き他の17名はスペイン語を母国語とする国の研修員であることから、スペイン語で本研修が実施されたことに満足しており、研修はこのため100パーセント理解できたと全員が答えた。仮に本研修が英語もしくは日本語で行われた場合、理解も意志疎通も不可能に近いので本研修コースは成功しなかったと思うし、自分も参加できなかったと思うと殆んど全員が述べ、今後のコースもぜひスペイン語で実施してほしいと希望している。

ブラジルの研修員は日常多少の不便を感じていたようであったが、スペイン語の聴解力はあるので研修は理解できたので問題はなかったと述べ、他の研修員と同様、スペイン語で研修が行われたことに満足している。

なお、日本人専門家は英語で講義を行い、オーストラル大学の教授がスペイン語に通訳している。

技術移転においてコミュニケーション手段である言語の重要性を考える時、母国語による研修が、本コースの研修効果を大ならしめた一つの要因であると考えられる。評価会における研修員の回答ぶりから、母国語による研修が第三国研修の大きなメリットとしてあらためて認識される。

## ④⑤ 研修施設及び研修用教材

この2点については、12名が優れている、6名が適当と回答している。いずれについても良いものが十分に用意されていたと説明があり、特に全授業の教材・テキストが事前に用意されていたことが高く評価されている。

## ⑥ 自国で得た本研修に関する情報

研修についての情報、条件を十分に把握、認識して研修に参加することが研修の成果を左右する重要な要素となるので、質問したところ、自国で十分な情報を得られた者4名（パラグアイ、エクアドル、ブラジル、チリ）、適当と答えた者8名で計12名は本コースに関する情報を自国のしかるべき機関から得ており問題はなかったと3カ国（ペルー、エクアドル、アルゼンティン）の6名が回答している。ペルー及びエクアドルでは募集要項（GI）が本人まで届くのに時間がかかり、研修参加の準備時間が十分にとれなかったことが挙げられ、これらの国々では通常国内の手続にかなり時間がかかるので、これを勘案した配慮がほしい

と希望している。アルゼンティンにおいても同様時間がかかるので、別途情報を得たとのことであった。

なお、ベネズエラは参加申込み後切後に参加要請書を提出してきたため、本年度のコースには参加できなかった。これらはすべてそれぞれの国の行政機能によるものであると考えられるものの、本コースの研修効果の点からも、できれば事情を調査し、募集ルートを検討したり、より前広にG、I、の送付を行うなど考慮する必要があると考えられる。

⑦ チリにおけるオリエンテーション

優れている12名、適当6名、計18名全員がチリ側から適切なオリエンテーションを与えられたと回答している。

(4) 本研修で学んだ技術と知識の適用

大いに適用できるとする者11名、適用できると答えた者6名で、参加研修員の殆んど全員が適用度は高いとし、帰国後、各人の仕事に直ちに本研修で得た技術と知識を適用したいと述べている。エクアドル、コロンビアの研修員からは、大学、研究所の指導の中で活用普及して行きたいとの発言があった。

アルゼンティンの1名のみがあまり適用できないと答え、理由は特定のテーマについて深く研修したわけではないので活用できないと説明した。

(5) 構義及びテーマ

講義内容を二つに大別して、直接家畜繁殖学に係るものと、関連領域と係るものに分けてみると、

① 家畜繁殖学の中心テーマであり、基礎的な分野である ②繁殖生理学、③雌性繁殖学、④産科学、⑤雄性繁殖学及び人工授精については、全般的に日常業務との関連も深く利用性も高いと認識されている。研修員全員が獣医師であることから基礎知識が十分にあることもあり、内容もわかりやすいとする者が50%を越え9～11名に達している。講義時間が短かすぎるとする意見は5名程度であった。これらは、教材が十分にあり、指導方法等も比較的良かったことも原因と考えられる。

なお、講義時間は②繁殖生理学が約10時間(J. E. Correa教授担当)、③雌性繁殖学が約25時間(C. Humberto del Campo, R. Gatica, J. E. Correa 各教授担当)、④産科学が約25時間(Juan, J. Ebert, Pedro Saelzer 各教授担当)、⑤雄性繁殖学及び人工授精が約30時間(C. Humberto del Campo, Jorge Ehrenfeld人工授精についてはJorge Oltra, Claus Hellemann 各教授担当)である。前述した内容と逆の視点に立てば、これほどの時間をかけても5名の研修員が講義時間が短いと言っている訳である。これを国別にみても、チリ、ペルー、エクアドル、ウルグアイ、ブラジルが該当する。

しかしながら、各研修員の意見を総合的にみれば、産科学、雄性繁殖学及び人工授精の分

野については若干講義時間を縮少させ、その他の関連科目（伝染性疾患等）にまわした方が良いと思われるので、次年度のカリキュラム作成時には配慮する必要がある。

- ② その他関連の分野として、解剖学、伝染病学、薬理学、病理学、栄養学と家畜繁殖学との関連領域の講義が実施されている。しかし産科解剖学の約15時間を除けば2～6時間程度の時間しかかけておらず、特に伝染性疾患等については講義時間が短すぎるという意見が50%に近い8名から出ている。また、薬理学と病理学関連の講義を行ったDr. Orlando Bustos, Dr. Frederick Ahumada, Dr. Fiedler Cubillos 各氏に対しては、指導方法が不適当とする意見が各2名ずつ出ている。一方、同三氏の指導方法が優れているとする意見も2～4名から出されている。不適当とする意見はチリとペルーの2名から出されている。

また、カリキュラム・専門科目について、各国グループの研修員からコメントを聴取した。内容は以下のとおりである。

ペルー（3人） …………… 自分の専門分野には興味がある。生理学等は時間的に短い。

講義45分の後質疑応答の時間が5分程度しかなく、不十分であった。討論と実習の時間を増やしてほしい。

ウルグアイ（2人） …… 内分泌学等の分野は大学で学び、すでに知識がある。これを再確認し、技術を身につける点で本コースは大変有益であった。

ブラジル（1人） …………… 解剖学、生理学等の理論は良くわかっているのので、これをさらに深め、身につけるための応用実施研修が望ましい。研修期間の後半で、専門分野ごとに3～4のグループに分けて研修を行ってほしい。

コロンビア（3人） …… 繁殖学等に興味を持っているのでこの分野の内容をもう少し深めてほしかった。研修内容のレベルは適当であったと思うが、専門外の研修は興味がなかった。研究所や試験場の者にとっては、野外での人工授精技術の実習等は必要でないし、野外現場の者にとっては研究室での研修は不要と思われる。従って研修員を研究室と現場の2グループに分けることが望ましい。

アルゼンティン（2人） …… 研修には二面あると思う。基礎的な分野も重要であるが、専門的分野についても、それぞれの国で実際に行われている面を考慮してほしい。牛の頭数確保、増加を念頭においた経済性についての研修を望む。

#### (6) 本研修コースについての期待

全研修員が満たされた（完全に満たされた14名、ある程度満たされた4名）と回答し、本コースに参加できたことを喜んでいると述べた。

#### (7) チリにおける生活環境

##### ① 宿 舎

快適と答えた者11名、非常に快適と答えた者が5名あり、計16名は快適な宿舎が提供

されたと考えている。海外からの研修員15名は全員が快適として、チリ側が提供した宿舎に満足している。

本研修コース開催国のチリ人には滞入手当が支払われていないため、海外からの研修員と同程度のホテルに宿泊できず、このためチリ国研修員は宿泊について1名は快適でないと回答している。

② 交通（バルディビア市）

全員が便利と回答しており、特に問題は見られない。バルディビアはこじんまりした町で、治安も良く、遊歩道、舗道等整備されており、必要な場合は大学が車を用意していたことによる。

③ 食 事

15名が良い（良い 13名、非常に良い 2名）と答えている一方、2名（ペルー、チリ）が良くないと答えている。各人の食生活習慣や好みの問題と考えられる。

④ 医 療

研修期間が短いため16名は健康で医療は受けなかった。わずか3名がこれを利用したが、うち2名は良いと答えたが、他の1名ペルー国研修員は非常に悪いと評し、病気で病院に治療を受けに行った時、3～4日前からの予約が無いという理由で診療を断られた。今後直ちに改善策をとる必要があると強調した。

⑤ 滞在費等

11名が十分、6名が不十分と回答した。

不十分と回答したのは、チリ2名、ブラジル1名、ペルー3名である。

チリ国研修員から滞入手当の支給を考慮してほしい旨要請があった。

1986年度の日当10ドルについては、1986年3月に決定されたものであるので、その後の物価指数等、また現地の生活条件、食事内容等を再調査し、検討する必要がある。

⑥ レクリエーション活動

優れている4名、良い7名、計11名が大学側が用意したレクリエーション活動は十分と感じているが、4名（チリ2名、コロンビア2名）は不十分であるとして、研修開始直後の交換パーティー、週末の観光、自由時間の活用などを希望している。

(7) チリ滞在中の最も深刻な問題

気候の変化（コロンビア1名）、寒さ（ブラジル1名）、食事の違い（ペルー1名）以外は全く問題がなかったと回答している。

(8) 次回研修への提言、コメント

研修については次のものが出された。

- ① ある期間または全期間、専門テーマについて深く研修できるようにしてほしい。

即ち、特定科目の講義を実習に換え、特に実習時間を多くする（アルゼンティン）、専門別に分れ実習を行う（ブラジル）、家畜繁殖、生理、胚移植など分野別のコースに変える（ペルー）等の意見が出され、専門別研修志向がうかがわれた。

- ② 研修員の自国の問題の解決を指導し、アイデアを与える時間を設ける。（ウルグアイ）
- ③ 共通基準作りのため教授との円卓セミナーの開催をはかる。（ウルグアイ）
- ④ 胚移植の時間を増加する。

一方、管理面では次のものがあった。

- ① 募集要項の内容を明確にかつ詳しくする必要がある。（コロンビア）
- ② 滞在費の増額。（エクアドル、コロンビア 2名）
- ③ 研修員のレベル或は専門等をそろえる。（エクアドル、コロンビア、2名）
- ④ 対象研修員を公的機関の獣医師に限り、民間の者は除くこと。（ペルー 1名）
- ⑤ 野外現場の者に限ること

等、研修員からそれぞれの専門や立場から自由な意見、提言が出された。

他に多くの研修員から感謝と本コースの成功に対する祝福の言葉が寄せられた。

質問票への回答ぶりから本コース参加研修員の真面目な態度が感じられたが、評価会で研修員に直接接してみると、全研修員が謙虚で、礼儀正しく、協力的であり、研修に対する真剣な取り組み方が感じられ、また帰国後、本研修で得た知識と技術を自国の発展に役立てようとする熱意と強い責任感にあふれている様子が印象的であった。質問票及び評価会の至るところで、満足と感謝の言葉が述べられている。

#### 4-3 受入先による評価

チリ国第三国研修家畜繁殖学のカウンターパートとの協議

日 時：1986年12月15日午前9時半～12時半 午後3時～5時半

出席者：獣医学部長及び同部指導教授8名、日本人専門家3名、調査団員3名

- (1) 最初に、倉持団長から、先般日本側が作成した質問票への回答及び評価会による本研修についての研修員の評価及び意見の聴取を行ったところ、本日はその結果を報告しつつ、受入先である大学側（カウンターパート）指導教授との間で1986年度第1回コースに関しての意見交換及び総合評価を行い、次年度以降の参考にしたい旨説明を行った。
- (2) チリ側はこの説明に対し、質問票の内容及び効果を高く評価し、チリ側としても本研修の評価を行うにあたり、この質問票及びその回答が極めて有効である旨述べた。
- (3) 日本側としては、これらの回答の集計結果（P 42～53）及び13日聴取した研修員の意見を発表していく中で、意見交換を行いつつ総合評価及び次年度の研修の方針枠組を検討していきたい旨伝えたとチリ側はこれに同意した。



(4) 調査団長から、研修員との評価会において本研修が全研修員から高く評価され、次年度以降もぜひ継続実施してほしいという強い要望があり、日本側もこの結果に満足しており、大学側の協力に感謝していると挨拶が述べられた。

これに対し、オーストラル大学獣医学部長から、「本コースの研修期間は短かったが、研修員は熱心に研修し、大きな成果を得て、本研修は有意義であったと喜んでおり、大学側も大いに満足している」と挨拶があり、日本側の協力に謝意が表明され、さらに、①本コースの開設、運営を通じ国内の公私の諸機関と新しい関係を開くことができた、②参加した海外諸国の当該分野の情報把握と意見交換ができたという2つの点で大学としても思いがけず得るところ大なるものがあり、関係者一同喜びとするところであると述べられた。

(6) この後、質問票の順に沿って研修員の評価結果が発表され、教授陣と意見交換、協議が行われた。

以下にその内容を記す。

#### ① 研修期間

##### ○ 全体期間

教授陣は研修員の評価結果に興味を示し、研修員が一致して述べたように、研修員の自国の仕事、家族のことを考えれば5週間前後の研修期間が適当であり、さらに延長することは大多数の参加を不可能にするであろうから望ましくないと述べ、大学側の本コースへの対応の可能性からみても、研修期間は5～6週間が適当であると全教授の意見も一致した。

##### ○ 研修スケジュール

研修スケジュールがタイトな点については、大学側は、研修であるからタイトなのは当然、タイトの方が効果的としてこれを緩和するため期間の延長を考える必要は全くないとしている。

##### ○ カリキュラムの時間配分

研修員が自己の専門外のテーマの研修時間を長いとして、専門分野が専攻できるよう専門グループ別または個別研修期間を設けてほしいの希望している点について、大学側は理解は示したものの、個別、研修、専門を行うコースに変えることは、本コースの目的からはずれることになり、また現在の大学の受入体制から対応することはできない(学部長他一同)。

第1回コースのカリキュラムの中で多少科目のバランスを変え(Dr. Gatica)、また焦点を或る程度絞るなどの対応を考えてみたい(Dr. M. del Campo)という意向を示した。

##### ○ 実習・討論・質問時間

これらの時間が短かったので次回コースには増加を希望するという大多数の研修員の意見については、18名全員の質問に答えるには絶対的時間がないのは本コース期間の制約上やむを得ない、(H. del Campo)。

本コースは専門科目と関連科目から構成されているところ、専門科目については質問、討論の時間は十分あったし、講義直後の30分のコーヒータイムや実習時間に質問は可能であったから問題はないと思う。関連科目については45分の講義だけで終るのでたしかに質疑応答の時間はなかった(Dr. Correa)、当大学教授にはいつでも質問は可能な体制をとっているので、問題にされるのは講義直後帰らなければならなかった外部からの講師の講義についてであろう(Dr. Saolzer)、等教授側から説明、分析があり、学部長が、質問、討論はたしかに重要と考えるので次年度コースには質疑応答、討論の時間を設けることを考慮したいと述べた。

他に、そのためにカリキュラム全体の見直しが必要(Dr. H. del Campo)、JICAとともに次回コースのカリキュラムの作成をしたい(Dr. Gatica)等の意見が出された。

#### ○ 期間についての結論

以上、研修期間についてはカリキュラムの内容、時間配分も含めて大学側では熱心に議論が交された結果、仮に1週間に1日のわりで質問、討論の時間を設けることになれば5週間プラス5日の期間増となり、全体期間は6週間必要になるであろうという点で、大学側一同及び調査団の見解が一致した。

時間配分については、内容も含め全関係教授にアンケート調査をしたいと本コースの大学側で事務局の任にあたっているDr. Gaticaから提案があった。

最後に、学部長が、カリキュラムの時間配分の改善については全教授が同意しているので、今後十分検討し結果を出したいと結んだ。

#### ② レベル

本コースのレベルを殆んどどの研修員が適当であると考えていることを大学側は当然と受けとめている。

3名の研修員が研修プログラムの内容は、沢山のテーマの紹介であるため専門科目については初歩的であると評価したことについては、大学側も本コースが各専門テーマへ集中する時間が少ないことを認めた上、これらの研修員は本コースへの期待が別のところにあったとして、今後できるだけ本コースの目的に合った研修員を選考するよう留意したい。即ち、研修員の年齢が高いほど専門化が深まり、細分化された特定のテーマ以外に興味を持てなくなることや、次回コース候補者の選考にあたっては、できるだけ若年層から大学または公共機関の研究者を中心に慎重に選考を行いたいとの意向が出された。

#### ③ 運営管理、教授法、教材、施設、オリエンテーション

全研修員が優れているとして高く評価し、賞賛していることに大学側は、この評価に満足している、次年度は一層の充実をはかりたいと意欲と自信の程を示している。

#### ④ 生 活

##### ○ 宿 舎

海外研修員からは好評であるにもかかわらずチリ国研修員には不評の点に関し、チリ国研修員には滞入手当が支給されていないため海外研修員と同じHotel Teja またはこれと同程度の宿舎に滞在できないためであることを指摘、今後の対応を問題としている旨述べた。

##### ○ 医 療

問題となるようなケースがなかったことを喜びながらも、ペルー国研修員が指摘した病院の態度の悪さについては、同人が行ったのは大学の指定外の病院であったと説明し、大学側に相談があれば解決に協力し得たであろうと遺憾の旨述べた。

##### ○ 滞 在 費

不十分と回答した研修員が6名、他にエクアドル及びコロンビアの2名が増額を要望し、計9名が次回研修員には増額を必要と考えている点について、大学側は現行の日額10ドルは1986年3月に決定されたので、その後の物価指数等を勘案する必要があると述べ、さらに大学食堂及び宿舎の食事の質がJICAの研修センターの食事に比して若干劣るので、研修員が大学生でないことを考えると、食事の質をJICAの研修員のそれと同程度に上げることが望ましいと思うとして、今後これらの諸点及び生活経費を慎重に調査し、日当の額を決定したい。1日12～15ドルは必要になると判断されると言明した。

さらに、チリ国研修員に対しても日当を支給するよう重ねて検討願いたいと日本側に対し、教授一同から強く要請された。

#### ⑤ 専門家派遣について大学側から次の要望があった。

- 日本人専門家のアドバイスを受けつつ研修コースを準備したいので、日本人専門家をコース開始の少くとも1週間以上前に派遣してほしい。
- 研修コース期間中、担当指導教授陣は資機材の用意特に牛の購入、飼育、テキスト作成、施設の準備、講義そのものと忙殺され、さらに通常の授業もある。これらの点を考慮して日本人専門家の派遣時期の調整を考慮してほしい。

#### 4-4 調査団の所見—総合的評価と今後の対処方針—

本調査の対象となったチリ国第三国研修家畜繁殖学コースは本年度はじめて実施されたものである。

すでに本件に関する事前報告書にも指摘されているとおり、本研修の実施機関アウストラル大

学が首都サンティアゴ市から 800 キロ離れた地方都市にあること、また同大学に対し、本研修コース実施以前に長期専門家 1 名の派遣とこれに係わる機材供与の他には大きな協力実績がなかったことから、本研修の評価結果には多少厳しいものもあるのではないかと懸念された。

現地における調査の結果、参加研修員及びアウストラル大学の双方の本研修についての評価は非常に高く、「非常に有益にして貴重なもの」として賞讃と感謝の言葉を浴びせられるほどの成功をおさめた。

これは参加研修員の研修意欲の高さ、大学側の慎重な準備と本研修にかける熱意と努力によるところが大きい。さらに、日本人専門家の協力とアドバイス、大使館及び在外事務所の側面的支援等本研修に係わる日「チ」関係者全体の協力の結晶であると考えられる。

#### (1) 研修計画全般

全研修員が ①有益、②習得した知識、技術の適用度大、③満足、④期待が満たされたとしており、大学側も研修成果は大きく、問題はなかったと評価しているので、研修計画は適正なものであったと判断される。

#### (2) 研修期間

期間そのものは研修員及び大学の双方が適当と考えているので、本コースの 5 週間は適正なものであったと考える。ただし、次回コースにおいては質問、討論、実習時間を増やすことを研修員から強く要望され、大学側も同様希望しているので、このための時間増を見込めば約 1 週間程度延長して 6 週間程度とすることも考えられる。

#### (3) 研修レベル・カリキュラム

カリキュラムは慎重な検討・研究の上作成されており、殆んど研修員が満足していることから適正なものであったと判断される。

一部の研修員には、レベルを低いとして専門科目に集中した個別研修志向が見られるが、本コースの目的が「家畜繁殖学」についての新しい知識と技術の紹介と研修にあり、その中の特定テーマの技術講習会ではないことと、大学側もこれに応じられる受入体制にはないことから、現在のところ、カリキュラム及びレベルについて大巾な変更は考えられない。

次回コースのカリキュラムについては、大学側は質問・討論時間、科目等のバランスなどを含めて十分検討し、必要な点は改善するなどさらに充実をはかりたいとしているので、次回は一層質の高いものとなることが期待される。

#### (4) 研修の時期

カリキュラムの作成、G I の送付、参加申し込みの受付、研修員の選定及び回答、実験牛及び教材の準備等の期間を考慮し、研修の開始時期を 10 月とし、クリスマス前には終了及び評価を行い得るよう終了時期を 12 月上旬とすることとした。

#### (5) 研修員数

家畜繁殖学という極めて専門的な内容を集中的に教授、指導する点からみて現状の18名が限界に近いと考え、次年度は1986年度と同様18名とした。

ただし、応募者数の多さ(1986年度は締切り日までに60名、締切り日以降にさらに20名の応募があり合計80名の応募があった。)を考えれば、三年目には20~21名程度の研修員受入れをチリ側に要請する必要がある。

#### (6) 研修対象国

1986年度では、応募申込み締切り後に申込みのあったベネズエラを来年度は加えることとした。また、これまでオーストラル大学において、別途実施した研修(例、1984年に実施した「家畜(牛)の母体と胎児の関係及び受精卵移植の新技术」)にコスタリカ、ホンデュラス、グアテマラ等中米の国々から参加していたことを考慮して、今後中米のスペイン語圏の国々を本研修に参加させる可能性について、チリ側で検討を進めることとした。

#### (7) 研修員の募集

本コースは定員18名のところ80名もの応募があり、募集方法は適切なものであったと考えられる。

募集締切り日までに60名の応募があったので募集方法に問題があったとは考えられないが、締切り後20名もの応募があったことから、GI送付を早めれば締切り日までに間に合う可能性も考えられるので、将来はこの点について配慮が必要であろう。

(2)のレベル・カリキュラムの項で述べたような特定の専門テーマについての個別(またはグループ別)研修志向者の参加または誤解を避けるため、GIには、より明確に、より詳細に本コースの目的、内容、その他の条件を説明する必要がある。

大学は、本年選考にもれた62名の殆んどが適格者であるとして、これらの者が多数に及ぶことに頭を悩ましていることを附記しておく。

#### (8) 研修員の選考

本コースの目的に合った者を選考すべく選考は一層慎重に行うこととし、研修効果の面からみて、専門化のまだ深まっていない吸収力の柔軟な若年層の公共機関(大学、試験場等)の獣医師を対象とすることが望ましい。また、近隣諸国とはいえ、国内の通信事情が悪い国々も多いので、割当国国内の選考を慎重に行い得るよう、GIはできる限り早い時期に送付するなどの配慮が必要であると考えられる。

#### (9) 実施体制

優れた受入条件と体制が整っており、好環境に恵まれていたといえる。これについては、特に次の諸点をあげておきたい。

- ① 受入先のオーストラル大学が全学をあげて本研修の実施にとり組む体制をとったこと
- ② 同大学獣医学部の教育レベルが高く、講師陣の殆んどが国外留学研修の経歴を有し、経験

も豊かで、年齢も40～57才と高く教育者としても研究者としてもベテランがそろっていること。

- ③ 学長、学部長はじめ講師陣が本研修に非常に意欲的であること。
- ④ 運営管理面でも優れた人材を有すること。
- ⑤ 十分な教材が用意され、日本側が供与した機材も含め、必要な機材が一通りそろっていたこと。
- ⑥ 日本人専門家が派遣され、指導に参加するとともに、常時アドバイスを与えたこと。
- ⑦ 生活面についても大学が十分な配慮をした。

#### (10) 日本側の協力

チリ側は日本の協力に非常に満足しており、特に大きな問題点や要望はないと声明している。今般の調査結果から、日本側は、本研修計画についてのアドバイス、必要な資金の提供、チリ側カウンターパートの受入れ、日本人専門家の派遣、機材供与等チリ側のニーズに合った支援を行い、チリ側の期待に十分応える協力を実施できたと判断される。

来年度も次の点を考慮しつつ、一層の成果をあげるためさらに、運営の効率化を図っていくこととする。

##### ① 日本人専門家

1986年度同様、次年度も研究協力の枠組の中で長期専門家一名、短期専門家4名の派遣を前向きに検討する。

チリ側からは専門家を第三国研修の開始前に派遣し、個別に技術指導を受けたい旨申し入れがあった。また、第三国研修の準備及び評価とりまとめの段階で本件協力に通じた専門家の派遣を期待する旨の発言があった。

##### ② カウンターパート研修

1987年度もチリ国から3名の研修員を日本に受入れる用意がある旨を伝えたところ、チリ側としては、C. Humberto Del Campo（家畜繁殖学）、Pedro Saelzer（産科学）、Veronica dela Barra（血液型判定）の3名を想定している旨回答があった。

##### ③ 経 費

本件協力に関し、期間延長及び物価上昇、単価見積りの変更等による経費増加は日本側で対応する。

なお、チリ側から資金を早目に送金してほしい旨要望があり、日本側としてはチリ側から積算及び要請を早めていただければ、対応は可能である旨答えた。

#### (11) その他

- ① 参加資格要件（獣医師、40才以下）は変更しないが、多数の応募者からの選抜の中では教育効果等を考慮して比較的若い年齢（27～35才）の者が選ばれよう。

② 研修の目的はこれまでどうりの「家畜繁殖学分野の知識技術の向上」ということであり特に変更しない。

③ 到達目標については、本研修はすでにある程度の知識を持った獣医師を対象とし、本研修が家畜繁殖学全般を含んだ内容のものであり、しかも5週間程度の比較的短い期間であることから、前述の研修目的以外に特別な目標を設置し、これを達成させることは現実的でないという結論に達したので、次年度は特に到達目標を明確にしないこととした。

上記の内容のうち、次年度の協力に係る部分についてはMinutes of Meetingを作成し、日本側倉持団長、チリ側アウストラル大学獣医学部長Dr. Juan Jorge Ebertとの間で署名交換を行った。

なおM/MはP37参照のこと。

## ま と め

本研修コースがこのように成功裡に終了したことは喜びにたえない。

評価会の後、学内外から多勢の出席者を得て盛大な閉講式が催された。この式において、日本側の協力がたたえられるとともに、感謝の言葉が繰返し述べられ、チリ側の配慮と喜びの大きなることが強く感じられた。

研修の現場である大学では、日々研修員と共にあり、それなりの困難、苦勞があったであろうことは想像にかたくないが、チリ側はこれを全く問題としていない。日「チ」双方でこのようにはじめての合同研修事業を成功させたのは評価に値する。

チリ側は本研修コースの継続に意欲的であり、日本の協力を期待しているので、日本側も次回研修の充実をはかるべく、意をあらたに一層の努力を傾け、日「チ」親善の一助としたいと念願するものである。





## 第5章 参 考 资 料



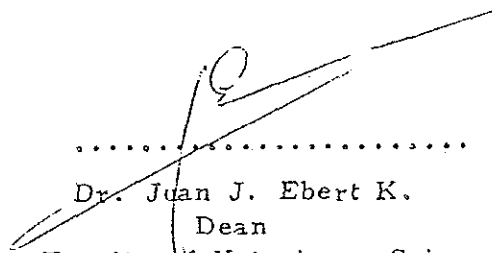
1. Minutes of the Meeting

Minutes of the meeting  
between  
the Japanese Evaluation Team  
and  
the Chilean authorities concerned  
on  
the Joint Study Project on Animal Reproduction  
under the Third Country Training Programme



.....

Ms. Hiroko Kuramochi  
Head of the Japanese  
Evaluation Team



.....

Dr. Juan J. Ebert K.  
Dean  
Faculty of Veterinary Science  
Universidad Austral de Chile.

Valdivia, Chile.  
December 16, 1986.

The Japanese Evaluation Team on the Animal Reproduction Project under the Third Country Training Programme (herein after referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (herein after referred to as "JICA") and headed by Ms. Hiroko Kuramochi, visited Valdivia city in the Republic of Chile from December 12 to December 16, 1986 in order to evaluate the result of the course.

During its stay in the Republic of Chile, the Team held a series of Evaluation meetings and discussions with Dr. J.J. Ebert K. and other professors concerned Faculty of Veterinary Science, Universidad Austral de Chile.

As a result of the discussions both sides affirmed successful completion of the training course, 1986.

Taking consideration of the fruitful result in the Evaluation, both sides agreed to recommend to implement this course continuously in the same form as conducted in 1986, in the meeting with the professors in charge of this course (as attached in Annex I).

The main topics discussed are as follows:

1. Duration

The course will be held for 5 to 6 weeks from October to the beginning of December in 1987.

2. Invited countries

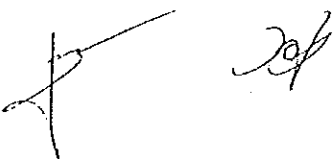
Universidad Austral de Chile will examine to invite some participants from central american countries.

3. Number of participants

Number of participants will be 18 persons in total, including 2 or 3 chilean participants.

4. Training of Chilean Counterparts in Japan

JICA will accept 3 Chilean counterparts for training in Japan in 1987.

Handwritten signature and initials in the bottom left corner of the page.

ANNEX I

1. Japanese Side

Hiroko Kuramochi	Leader, Japanese Evaluation Team Director, Training Division, Tsukuba International Centre, JICA.
Hiromitsu Moriyama	Member, Japanese Evaluation Team Senior Official (DVM) International Cooperation Division Department of Economy Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
Kiichiro Kuno	Member. Japanese Evaluation Team Vice Director Administration Division Training Department, JICA
Hiroshi Takamine	DVM Ph.D. Professor Emeritus, Tokyo University of Agriculture and Technology. Professor Extraordinary, UACH.
Tatsuo Imori	DVM Ph.D. Professor Emeritus, Univ. of Osaka Prefecture Professor Huesped, UACH.
Tadashi Sugie	DVM Ph.D. Adviser, Livestock Improvement Association of Japan. Professor, Utsunomiya University.

2. Chilean side. (UACH)

Juan J. Ebert K.	Decano Facultad Ciencias Veterinarias
Jorge E. Correa S.	Director Instituto Reproducción Animal
Jorge Ehrenfeld v.H.	Director Centro Inseminación Artificial
C. Humberto Del Campo	Profesor
Marcelo R. Del Campo	Profesor
Renato Gatica G.	Profesor
Pedro Saelzer R.	Profesor
Claus Hellemann B.	Profesor
Jorge Oltra C.	Profesor



2. 第三回研修・第1回家畜繁殖学コースについての研修員による評価（質問票回答集計）

研修実施機関 Universidad Austial de Chile 獣医学部  
 （家畜繁殖学研究室及び家畜人工授精センター）  
 研修期間 1986年11月16日～1986年12月13日  
 研修員数 18名（国外15名、チリ国3名）  
 回答日 1986年12月6日

1. 本コースについて

1. 非常に有益であった 17名 2. 有益であった 1名 3. 有益でない 0名

2. 研修プログラムについて

(1) 研修期間

1) 全般に： 1. 短か過ぎる 2名 2. 適当 13名 3. 長過ぎる 3名  
 2) 講義： 1. 短か過ぎる 2名 2. 適当 16名 3. 長過ぎる 0名  
 3) 実習： 1. 短か過ぎる 5名 2. 適当 13名 3. 長過ぎる 0名  
 4) 討論： 1. 短か過ぎる 6名 2. 適当 11名 3. 長過ぎる 0名  
 5) 見学： 1. 短か過ぎる 0名 2. 適当 17名 3. 長過ぎる 0名

(2) 研修レベル

1) 全般に： 1. 高度過ぎる 0名 2. 適当 14名 3. 初歩的 3名  
 2) 講義： 1. 高度過ぎる 1名 2. 適当 14名 3. 初歩的 2名  
 3) 実習： 1. 高度過ぎる 0名 2. 適当 15名 3. 初歩的 2名

(3) 最も興味のあったテーマ

産科 10、雌の繁殖 17、胚移植 7、繁殖手段 8、雄の繁殖（人工授精を含む）4、  
 生殖器病理 3、内分泌 2、育種 2、飼料栄養 2、その他

(4) 本研修に加えてほしいテーマ

バイオテクノロジー 1、薬理 1、病理 1、E. T. 生殖生理の研修時間を延長してほしい 1

(5) 不要と思われたテーマ

1) 講義：なし 6名、微生物学 1名、代謝 1名、生殖器病理 1名  
 2) 実習：微生物学 1名、周産期 1名、胎子摘出術（長過ぎる） 1名  
 3) 見学：人工授精 2名



### 3. コースの運営管理

- (1) 運営全般：1. 優れている 14名 2. 良い 4名 3. 良くない 0名
- (2) 教授法：1. 優れている 12名 2. 適正 6名 3. 不適正 0名
- (3) 研修に使用した言語：1. 全く問題はなかった 17名 2. 大きな問題はなかった 1名  
3. 問題があった 0名
- (4) 研修施設：1. 優れている 12名 2. 適当 6名 3. 良くない 0名
- (5) 研修用教材：1. 優れている 12名 2. 適当 6名 3. 良くない 0名
- (6) 自国における本研修に関する情報：1. 優れている 4名 2. 適当 8名  
3. 問題があった 6名(3カ国)
- (7) チリにおけるオリエンテーション：1. 優れている 12名 2. 適当 6名  
3. 不十分 0名

### 4. 技術と知識の適用

本研修で得た技術と知識を自分の国において適用できると思うか

1. 大いにできる 11名 2. できる 6名 3. 殆んどできない 1名

### 5. 各研修テーマについての評価

別紙

Hoja adj inta-Evalvaluación Deballada

項目	(a) 設定時間			(b) 関連と利用性			(c) 指導と提示の方法			(d) 教材			(e) 講習の平易さ			(f) 総合評価			を数字記入した該項目人数
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
テーマ及び講義 Temas y Lecciones	5	11		13	3		10	6		12	4		9	5		12	3		
繁殖生理学	5	11		12	4		13	3		11	5		9	6		11	4		
産科	5	12	1	11	6	1	7	10	1	9	8	1	9	8		95	7.5		
雌性繁殖学及び 人工授精	3	14	1	10	8		9	9		10	8		11	7		10	8		
伝染性疾患	8	9		6	8		5	12		3	14		4	11	1	5	10	1	
産科解剖学	1	16		4	11	1	3	14		3	13	1	5	10	1	3	13		
子宮の薬理学	5	11		4	9	2	2	13	2	2	15	2	3	12	1	2	14		
産科における 麻酔と鎮静剤	5	12		9	7		4	11	2	4	13		5	10	1	5	11	1	
初生子の先天性病理	4	13	1	3	12	2	2	15	2	2	16		4	12	1	4	12	1	
代謝の一面	7	10	1	6	9	2	4	12.5	1.5	3	14	1	3	13	1	4	12	1	
栄養と受胎性	8	9	1	9	7	1	4	13		4	14	2	4	12	1	4	13	1	

注 合計数で18名に満たない項は、参加者の都合により欠席した科目のあることによる。  
端数は評価が中間にあったもの。

6. 本研修についての期待は満たされたか

1. 完全に満たされた 14名 2. 一部満たされた 4名 3. 全く満たされなかった 0名

7. チリ(主としてバルディビア)における生活全般

- (1) 宿舎: 1. 非常に快適 5名 2. 快適 11名 3. 快適でない 1名(チリ人)  
(2) 交通: 1. 非常に便利 8名 2. 便利 10名 3. 不便 0名  
(3) 食事: 1. 非常に良い 2名 2. 良い 13名 3. 良くない 2名  
(4) 医療: 1. 優れている 0名 2. 良い 2名 3. 悪い 1名

(病気にならなかつたので利用しなかつた 13名)

- (5) 滞在費等: 1. 多すぎる 0名 2. 十分 11名 3. 少ない 6名  
(6) レクリエーション活動: 1. 優れている 4名 2. 良い 7名 3. 少ない 4名

8. チリにおいて遭遇した最も深刻な問題は何か

全くなかつた 12名

気候の変化 1名 食事 1名

9. 次回の研修に対する提言

- (1)受講項目の選択を可能にしてほしい 5名 (2)実習を多く 1名 (3)滞在費の増額 2名  
(4)応募期間をもう少し長く 1名 (5)年齢制限をはずす 1名 (6)特色ある分野をもつよう 1名  
(7)セミナーの時間をもう少し多く 1名 (8)公的機関勤務獣医師と共に個人診療従事者も受入れてほしい 1名 (9)実習を一同に 1名 (10)E. T.の時間を増加 1名  
(11)胚の凍結 1名 (12)生殖生理の時間をもっと多く 1名 その他

10. 全般的なコメント

謝辞 5人、 出国時の問題・その他 3人

(参考) 質問票(英語版)及び回答一部の分布割合

Course in 1986

Questionnaire for Final Evaluation

NAME : \_\_\_\_\_

COUNTRY : \_\_\_\_\_

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

The result of questionnaire

1. The total evaluation on this course

1. Very useful : 94 %    2. Useful : 6 %    3. Not useful : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2. Training programme

(1) Length of the course

① In general

1. Too short : 11 %    2. Adequate : 72 %    3. Too long : 17 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

② Lecture

1. Too short : 14 %    2. Adequate : 86 %    3. Too long : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

③ Practice

1. Too short : 31 %    2. Adequate : 69 %    3. Too long : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

④ Discussion

1. Too short : 33 %    2. Adequate : 61 %    3. Too long : 0 %  
4. No answer : 6 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

⑤ Observation

1. Too short : 0 %    2. Adequate : 94 %    3. Too long : 0 %    4. No answer : 6 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(2) Level of the course

① In general

1. Too advanced : 0 %    2. Adequate : 78 %    3. Elementary : 16 %    4. No answer : 6 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

② Lecture

1. Too advanced : 6 %    2. Adequate : 78 %    3. Elementary : 10 %    4. No answer : 6 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

③ Practice

1. Too advanced : %    2. Adequate : 83 %    3. Elementary : 11 %    4. No answer : 6 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(3) What were the most interesting topics for you?

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(4) Please mention any topics which should have been included in the course.

1. Lecture \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
2. Practice \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
3. Observation \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(5) Do you think any topics were unnecessary for this course?

1. Lecture \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
2. Practice \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
3. Observation \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

3. Administration

(1) Course conduct (Management in general)

1. Very good : 78 %    2. Good : 22 %    3. Poor : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(2) Method of Instruction

1. Very good : 67 %    2. Good : 33 %    3. Poor : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(3) Communication Language

1. We didn't have any problem at all.                      89 %
2. We didn't have so big problems.                              11 %
3. We had big problems.    0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(4) Training Facilities

1. Very good : 67 %    2. Good : 33 %    3. Poor : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(5) Training Materials

1. Very good : 67 %      2. Good : 33 %      3. Poor : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(6) Information on this course given in your country

1. Very good : 22 %      2. Good : 44 %      3. Poor : 34 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(7) Orientation given at Chile

1. Very good : 64 %      2. Good : 36 %      3. Poor : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

4. Any other comments or suggestions on the programme and course conducts, if any.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

5. Detailed evaluation on the programme

Please complete the table on the attached sheet.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



6. Was your expectation of this training course fulfilled?

1. Fully fulfilled : 78 %    2. Partly fulfilled : 22 %    3. Not fulfilled : 0 %

Comments \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

7. General life in Chile

(1) Accommodation

1. Very good : 28 %    2. Good : 60 %    3. Poor : 6 %    4. No answer : 6 %

(2) Transportation

1. Very good : 44 %    2. Good : 56 %    3. Poor : 0 %

(3) Food

1. Very good : 11 %    2. Good : 72 %    3. Poor : 11 %    4. No answer : 6 %

(4) Medical care

1. Very good : 0 %    2. Good : 11 %    3. Poor : 6 %    4. No answer : 83 %

(5) Recreational activities

1. Very good : 22 %    2. Good : 44 %    3. Poor : 22 %    4. No answer : 12 %

Comments or anggestings \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

8. What was the most serious problem you encountered in Chile

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

9. Please give your suggestions for the future course.

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

10. General Comments, if any.

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

Topics & Lecturers	(a) Time Allocated			(b) Relevance and Usefulness			(c) Method of Instruction & Presentation			(d) Training Materials			(e) Training Facilities			(f) Evaluation		
	1. Too short	2. Adequate	3. Too long	1. Very	2. Relevant	3. Not relevant	1. Very good	2. Good	3. Poor	1. Very good	2. Good	3. Poor	1. Very good	2. Good	3. Poor	1. Very good	2. Good	3. Poor
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3

### 3 入手資料リスト

1. UNIVERSIDAD AUSTRAL DE CHILE
2. 1er. CURSO INTERNACIONAL EN REPRODUCCION ANIMAL  
Facultad de Ciencias Veterinarias
3. 1er. CURSO INTERNACIONAL EN REPRODUCCION ANIMAL  
Compendio de Clases
4. TOROS '85 - '86 (種牛名簿 85 ~ 86年)  
CIA - UACH
5. TOROS '86 - '87 (種牛名簿 86 ~ 87年)  
CIA - UACH
6. INFORMATIVO  
CIA (N°-24, N°-25)
7. CENTRO TECNOLOGICO DE LA LECHE PARA CHILE Y AMERICA  
LATINA
8. FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE LAITERIE INTERNATIONAL DAIRY  
FEDERATION
9. An International Force for Progress in Dairying

4. 参加研修員

国名	氏名	年齢	所属住所
アルゼンティン	Nirma Alicia Gonzáica,	31 (女)	Casilla 37, 9203 Trevelin, Prov. Chubut, Fono 0945-8157
	Omar Esteban Alonso Pinarro,	34	Esteban Salvador s/ne, 8349 Loncopue, Prov. Neuquen
ボリビア	Juan Suárez Montero,	30	Universidad Técnica del Beni, "MCAL. José Ballivian", Beni. Casilla Ne 38 - Trinidad
ブラジル	Haroldo Francisco Lobato Ribeiro,	35	Facultade de Ciencias Agrarias do Para. Avda. Perimetral SN, Terra Firme, Tel (091) 226-3493, Cx 917 66000 Bel. Pa.
コロンビア	Jaime Jimenez López,	39	Instituto Colombiano Agropecuario Apartado Aéreo 151123, Eldorado, Bogotá
	Alvaro Evaristo Guáqueta Rincón	35	Calle 5a. N° 5-75. Paipa (Boyacá) Fono 283
	Juan Mauricio Sandoval Alvarado,	32	Calle 5a. N° 5-75, Paipa (Boyacá) Fono 283, Fono Part. 581
チリ	Vicente Muñoz Aguayo,	32	Calle Bilbao N° 586, Casilla 207 San Carlos. Tel 291
	Hugo Ryks Rutherford,	32	Casilla 13 - Ancud. Tel 538
	Claudio Marcelo Rojas Silva,	28	Casilla N° 27 Fono 310222 Curicó.
エクアドル	Fernando Patricio Villaiba Barrera,	30	Presidencia de la República, Comisión Ecuatoriana de Energía Atómica, San Javier N° 295 y Avda. Orellana Apartado 2517 Quito.
	Wilson Gilberto Vega Borja,	34	Casilla 5177, CCI Quito
パラグアイ	Juan Carlos Espinola Castillo,	36	Universidad Nacional de Asunción Facultad de Ciencias Veterinarias Casilla 1061. Tel. 500. 930 San Lorenzo
ペルー	José Teodoro Camacho Salcedo	35	Libertador 402, San Isidro Lima, Fono 223072
	Eduardo Teodoro Deza Terrones,		Jirón Cinco Esquinas N° 999 Cajamarca. Facultad de Ciencias Veterinarias. Universidad Nacional de Cajamarca. Apartado N° 16 Cajamarca Fono 1296
	Adrian Wilfredo Guzmán Zegarra,	35 (女)	Universidad Nacional de Piura, Facultad de Zootecnia Campus Universitario, Miraflores Apartado N° 295 - Piura
ウルグアイ	Pedro Miguel Bañales Puppo,	29	Ministerio de Ganadería, Agricultura y Pesca, Centro de Investigaciones Veterinarias "Miguel C. Rubino" Ruta 8 - Brig. Gral. Juan A. Lavalleja Km. 29 - Tel. 0392-2101 Casilla 6577, Pando
	María Anita Olivera Méndez,	33	Ministerio de Ganadería, y Pesca, Centro de Investigaciones Veterinarias "Miguel C. Rubino" Ruta 8 - Brig. Gral. Juan A. Lavalleja Km. 29 - Tel. 0392-2101 Casilla 6577, Pando

## Primer secretario de Embajada de Japón Anunciada realización de segundo curso internacional en ceremonia de clausura

Destacó logros y éxito de la primera jornada sobre reproducción animal realizada en la UACH.

En una ceremonia realizada en el Teatro Universitario de la UACH, se clausuró el primer curso internacional sobre reproducción animal que se desarrolló durante un mes en la Facultad de Ciencias Veterinarias mediante el

convenio que mantiene la corporación, con el Gobierno de Japón, por intermedio de JICA.

En el acto estuvieron presentes, autoridades militares y civiles, el primer secretario de la Embajada de Japón,

Takeito Misaki, el representante de la agencia internacional de cooperación, Susumo Kato, académicos y profesionales—alumnos del curso internacional.

Asistieron además los profesores huéspedes y expertos japoneses, Hiroshi

Takamine, Tatsuo Imori y Tadashi Sugie, una misión japonesa venida directamente de Japón y la agregada cultural de la Embajada Kaiko Ishihara.

En la oportunidad se interpretó el himno nacional y el himno del Japón. A continuación se dirigió a los

presentes, el rector de la Universidad Austral de Chile, Jaime Ferrer quien señaló que éste ha sido un trabajo mancomunado entre la corporación y JICA. Destacó el aporte científico de Japón porque implica abrir una ruta al mejor entendimiento entre las naciones.

Indicó que ha sido muy grato para la UACH recibir a los alumnos provenientes de diferentes países latinoamericanos: Argentina, Bolivia, Brasil, Colombia, Ecuador, Paraguay, Perú, Uruguay y Venezuela, además de tres chilenos.

A continuación habló el primer secretario de la Embajada de Japón, Takeito Misaki, quien expresó que este primer curso

### el diario austral

VALDIVIA  
Director: Gustavo Serrano Celis  
Domicilio: Independencia 499 Valdivia  
Propietario: Sociedad Periodística Araucanía S.A.  
Representante Legal: Enrique Alvarado Aguilera  
Domicilio: St. Buenos Aires Temuco  
Fonos: 3133 - 3134 Valdivia.



Los participantes en el curso sobre reproducción animal recibieron su diploma de parte del decano de la Facultad de Ciencias Veterinarias Juan J. Ebert. Proviene de diferentes países latinoamericanos y de Chile.

internacional había sido exitoso. Dijo que los conocimientos adquiridos por los profesionales participantes serían aplicados en sus países, propendiendo así al desarrollo de Latinoamérica.

Agradeció la colaboración brindada por los docentes de la UACH, que impartieron el curso y la cooperación prestada por la Facultad de Ciencias Veterinarias, además de elogiosos conceptos por la buena dirección brindada a esta jornada, expresando que se realizará un segundo curso.

#### ENTREGA DE DIPLOMAS

Se procedió a continuación a hacer entrega de los diplomas respectivos a los 18 alumnos asistentes, a quienes además se les otorgó un presente.

El Dr. Jaime Jiménez de Colombia se dirigió a los asistentes, a nombre de los profesionales—alumnos. Destacó la participación técnica de JICA, al Instituto de Reproducción Animal de la UACH. Dijo "seremos la semilla de un gran comienzo en el territorio latinoamericano, que tiene gente capaz de aplicar nuevas tecnologías como las aprendidas durante el curso, el cual tuvo una definida y sólida organización de la cual nos sentimos satisfechos y orgullosos".

Al mismo tiempo hicieron entrega de una placa recordatoria al decano Dr. J. Jorge Ebert y al director del curso, Dr. Jorge Correa.

El rector Jaime Ferrer distinguió con un diploma y una medalla a los expertos japoneses: doctores Takamine, Sugie e Imori.

Además entregó una medalla con el escudo de la Universidad y su reconocimiento a los integrantes de la misión japonesa y nombró profesor huésped al Dr. Tadashi Sugie.

La ceremonia finalizó con la actuación del Ballet Folclórico dirigido por el profesor Julio Mariángel, el cual fue ovacionado por los asistentes. Cabe señalar que el BUFUACH depende de la Dirección de Extensión.



Los integrantes de la misión japonesa, integrada por el primer secretario de la Embajada de Japón, Takeito y el representante de JICA en Chile, Susumo Kato, recibieron una medalla con el escudo de la UACH, en reconocimiento por la cooperación brindada para el primer curso internacional, la cual fue entregada por el rector Jaime Ferrer.



En la Universidad Austral de Valdivia se clausuró el I Curso Internacional de Reproducción Animal

El rector, Jaime Ferrer, hace entrega de un diploma también a los profesores japoneses que estuvieron presentes en el curso de reproducción.

El becado de Colombia, doctor Mauricio Sandoyal, se dirige a las autoridades en nombre de todos los participantes, agradeciendo la realización de este curso.

## Destacan la

# importancia de la integración latinoamericana

El sábado recién pasado se clausuró en Valdivia el Primer Curso Internacional en Reproducción Animal, ceremonia que tuvo lugar en el Teatro de la Universidad Austral de Chile. Cabe señalar que este curso fue realizado gracias a un convenio entre el Gobierno de Japón, a través de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) y estuvo dirigido a médicos veterinarios de América Latina.

En la ocasión, el rector de esa casa de estudios, Jaime Ferrer, señaló que "la Universidad Austral ha buscado una orientación, dándole real importancia a los productos renovables, de tal forma que este curso, responde a esta inquietud y no sólo tiene un sentido científico en el presente, sino que uno social en el futuro, pues el bienestar de las generaciones venideras estará determinada por el avance tecnológico, el que

deberá ser capaz de entregar los alimentos necesarios para la población, los que deberán ser producidos sobre terrenos agrícolas que se van reduciendo día a día con la urbanización". Del mismo modo, el rector hizo énfasis en la importancia que tienen estas jornadas para la integración de los pueblos iberoamericanos, deseando que los diversos participantes se lleven el mejor recuerdo de Chile y un enorme agradecimiento al gobierno imperial del Japón.

### MENSAJE ORIENTAL

Por su parte, Takaito Misaki, Primer Secretario de la Embajada nipona, se refirió en similares términos, señalando que "no queda otra cosa que felicitar a todos los participantes, tanto docentes chilenos como japoneses y especialistas becados, puesto que el curso ha sido un real éxito y estoy seguro que además ha contribuido a estrechar entre ustedes una

gran amistad y entendimiento que perdurará y que contribuirá al desarrollo y cooperación en la América Latina.

### BECADOS

Posteriormente los asistentes fueron invitados a un almuerzo de camaradería, donde "Campo Sureño" tuvo la ocasión de conversar con el doctor Aroldo Lobato de Brasil, quien se mostró muy complacido por el gran nivel técnico que tiene la Universidad Austral, recalando que el espíritu de todos los participantes se ha enriquecido con esta experiencia porque ha permitido un intercambio muy eficaz del conocimiento de la realidad latinoamericana.

Consultado acerca de las novedades de investigación que se están efectuando en su país, Lobato expresó que en el norte de Brasil están probando con mucho éxito la explotación de un tipo de bofalo de gran rusticidad para la producción de carne, llegando en estos mo-

mentos a usar en esta especie la inseminación artificial.

El becado de Perú, doctor Eduardo Deza, indicó que ha quedado muy sorprendido por el excelente nivel docente de la UACH, así como de los equipos instrumentales existentes para desarrollar investigación.

En nuestro país, continuó Deza existen muchos problemas en el desarrollo de la masa ganadera y en los últimos 20 años prác-

ticamente no ha existido un crecimiento de ella, fundamentalmente porque las importaciones de leche en polvo han hecho imposible competir a los productores con los precios internacionales.

"Finalmente me voy con una gran enseñanza y convencido que los animales de doble propósito como el que tienen en Chile, sería una gran solución para muchas regiones de nuestro país", terminó diciendo Deza.



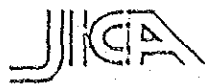
Una impresión de la sala del teatro universitario donde se realizó el acto de clausura.

## "Día de Campo" en la Pampa

Durante el día martes 16 del presente, se realizará un "Día de Campo en Trigo", en la Subestación Experimental La Pampa, a 40 kilómetros al sur de Osorno, comuna de Parranque.

A esta tradicional actividad están invitados todos los interesados, comenzando a las 14 horas con el tema "Uso de Fungicidas en Trigo", será expuesto por Orlando Andrade, continuando con el "Uso de Herbicidas en el Trigo", presentado por Nelson Espinoza y finalmente un "Recorrido a Semilleros de Trigo", a cargo de Cristian Hewstone, todos estos profesionales son ingenieros agrónomos de la Estación Experimental Carilanca.

6. 終了証書



Agencia de Cooperación  
Internacional del Japón



Universidad Austral de Chile  
Facultad de Ciencias Veterinarias

Se otorga el presente D I P L O M A a

por cumplir exitosamente con los requisitos del PRIMER CURSO INTERNACIONAL EN  
REPRODUCCION ANIMAL, realizado en Valdivia entre el 10 de noviembre y 13 de di-  
ciembre de 1986.

Sr. Susumu Kato  
Representante Residente  
JICA Oficina en Chile

Dr. Juan J. Ebert  
Decano  
Facultad de Ciencias Veterinarias

Dr. Tatsuo Imori  
Profesor

Dr. Jorge E. Correa  
Director del Curso

Dr. Hiroshi Takamine  
Jefe Programa Conjunto  
Chile-Japón en Reproducción Animal

VALDIVIA, diciembre de 1986



7. 第一回研修応募者リスト

NOMINA DE POSTULANTES AL PRIMER CURSO INTERNACIONAL EN  
REPRODUCCION ANIMAL (UACH-JICA)

Solicitudes recibidas antes de iniciado el curso	58 personas
Solicitudes recibidas después de selección	22 personas
Total de solicitudes recibidas	80 personas

Nota: Conviene destacar que el Colegio Medico Veterinario de Perú recibió 17 postulaciones de las cuales ellos seleccionaron a dos que fueron enviadas a Valdivia.

amn.  
11.12.86.

## REGISTRO DE SOLICITUDES :

A R G E N T I N A

- 1.- ) Claudio Glauber.
- 2.- ) Rodolfo Murray.
- 3.- ) Roberto García.
- 4.- ) Jorge Cabodevilla.
- 5.- ) Eduardo Barry.
- 6.- ) Fernando Selasco.
- 7.- ) Marcelo Durand.
- 8.- ) Mario Grieben.
- 9.- ) Federico Knaverhase.
- 10.-) Carlos Soni.
- 11.-) Santiago Callejas.
- 12.-) Hernando Casagrande.
- 13.-) Omar Alonso.
- 14.-) Leonardo Morini.
- 15.-) Ricardo Etchevers.
- 16.-) Nirma González.
- 17.-) Andrés Kloster.
- 18.-) Marcelo Fort.
- 19.-) Daniel De Sousa.
- 20.-) Juan Filgueira.
- 21.-) Marcelo Miranda.
- 22.-) Mario Sirvén.
- 23.-) Andrés Zenón Bassi.
- 24.-) Alejandro Gibbons.
- 25.-) Mauricio Gatica.
- 26.-) Marcelo Faoiella.
- 27.-) David Eusebio.

## REGISTRO DE SOLICITUDES :

B O L I V I A

- 1.- ) Ciro J. Melgar.
- 2.- ) Jaime Parada Rosel.
- 3.- ) Luis Alberto Vaca.
- 4.- ) Juan Suarez Montero.
- 5.- ) Feliciano Cuevas Cromeo.

REGISTRO SOLICITUDES : BRASIL

- 1.- ) Arnaldo Lobato R.
- 2.- ) Ed. Hoffman Madureira.

REGISTRO SOLICITUDES : CHILE

- 1.-) Claudio Rojas.
- 2.-) Vicente Muñoz.
- 3.-) Luis Henríquez Asenjo.
- 4.-) Hugo Ryks R.
- 5.-) Vicente Mihovilovich H.
- 6.-) Marco Macchiavello C.

REGISTRO DE SOLICITUDES : COLOMBIA

- 1.- ) Diego Ortíz.
- 2.- ) Alvaro Guaqueta.
- 3.- ) Juan Sandoval.
- 4.- ) Jaime Jiménez.
- 5.- ) Martha Olivera.
- 6.- ) Olimpo Oliver E.
- 7.- ) Héctor González.
- 8.- ) Jorge Salazar.
- 9.- ) Miguel Rivera.
- 10.- ) Néstor Gutierrez.
- 11.- ) Mariano Bonilla S.

REGISTRO DE SOLICITUDES : ECUADOR

---

- 1.- ) Francisco León.
- 2.- ) Fausto Andrade.
- 3.- ) Fernando P. Villalba.
- 4.- ) Wilson Vega Borja.
- 5.- ) Jorge González G.
- 6.- ) Alfredo Pallares.

REGISTRO SOLICITUDES : PARAGUAY

---

- 1.- ) Carlos Bresanovich.
- 2.- ) Juan Espínola.
- 3.- ) Gerónimo Berni.
- 4.- ) Adolfo Pereira.

REGISTRO DE SOLICITUDES : PERU

---

- 1.- ) Habacuc Celis A.
- 2.- ) José Camacho.
- 3.- ) Eduardo Deza.
- 4.- ) Adrián Guzmán.
- 5.- ) Luisa Echevarría.
- 6.- ) Henry De Los Santos D.

REGISTRO DE SOLICITUDES : U R U G U A Y

---

- 1.- ) María Anita Olivera.
- 2.- ) Enzo Baroni.
- 3.- ) José Queirolo.
- 4.- ) Pedro Bañales.
- 5.- ) María De las M. Etcheverry.
- 6.- ) Niel Rodríguez L.
- 7.- ) José Coelho De Oliveira B.
- 8.- ) Julio E. Lorenzelli B.

REGISTRO DE SOLICITUDES : V E N E Z U E L A

---

- 1.- ) Diego Ocanto.
- 2.- ) Javier Goicochea.

8. 第三国研修 第1回チリ、家畜繁殖プログラム

組織委員会

会長： 獣医学部部長 Juan J. Ebert K. 博士  
名誉会長： 終身教授 Hiroshi Takamine 博士  
委員： 家畜繁殖研究室長 Jorge E. Correa 博士  
家畜人工授精センター所長 Jorge Ehrenfeld 博士  
客員教授 Tatsuo Imori 博士  
大学院主任教授 Bernardo Fraser 博士

実行委員会

委員長： 家畜繁殖研究室長 Jorge E. Correa 博士  
副委員長： Renato Gatica 博士  
代理： 家畜人工授精センター Jorge Oltra 博士

第一回家畜繁殖国際講習会  
U A C H - J I C A

講習会日程表

11月10日 月曜日	演題	講師
09:00-09:10	オリエンテーション	講習会主任
09:15-10:00	「性ホルモン」(概略)	J. E. Correa
10:15-11:00	繁殖プロセスの 内分泌問題	J. E. Correa
12:00	バルディビア市 による開会式	市当局
14:30-17:00	図書館の紹介	H. Del Campo
18:00	開講講演 家畜における 受精卵移植の歴史	T. Sugie
11月11日 火曜日		
09:00-09:45	性周期	R. Gatica
09:50-10:35		
11:00-11:45	性的行動	R. Gatica
11:50-12:35	続き	
14:30-18:30	カントリーレポートの 発表及びセミナーの割 り当て	H. Del Campo
11月12日 水曜日		
09:00-09:45	性周期及び臨床問題	H. Del Campo
09:50-10:35	生殖器官の形態学的 生理学的問題. グループ I	
11:00-11:45	同. グループ II	H. Del Campo
11:50-12:35	同. グループ III	
14:30-18:00	セミナーの準備	H. del Campo
11月13日 木曜日		
09:00-09:45	生殖臨床試験	H. del Campo
09:50-10:35	実演	
11:00-11:45	雄牛及び器官に依る実技	H. del Campo
11:00-12:35	続き	
14:30-18:00	実習	R. Gatica

日付	曜日	演題	講師
11月14日	金曜日		
09:00-09:45		繁殖性、不繁殖性の概念及び繁殖性を持たせる為の措置	H. Del Campo
09:50-10:35		乳牛繁殖の為の取り扱い	R. Gatica
11:00-11:45		続き	R. Gatica
11:50-12:35		肉牛繁殖の為の取り扱い	H. Del Campo
14:40-18:00		実習	R. Gatica
11月15日	土曜日		
09:00-10:30		図書館にて実習	
11:00		観光旅行(川下り)	
11月16日	日曜日	休日	
11月17日	月曜日		
09:00-09:45		繁殖用雌牛	J. E. Correa
09:50-10:35		雌牛の繁殖病理学	H. Del Campo
11:00-11:45		雌牛の繁殖病理学	H. Del Campo
11:50-12:35		産道の例。グループ I 同。グループ II	
14:30-15:30		生殖器病理学。病理解剖 グループ III	H. Del Campo
15:30-18:00		自由時間	
18:00		講演「家畜血液型原論 及び各論」	M. Kanemaki
11月18日	火曜日		
09:00-10:30		雄の繁殖病理学	H. Del Campo
11:00-12:35		非性周期	R. Gatica
14:30-18:00		実習	R. Gatica



11月19日 水曜日	演題	講師
09:00-09:45	生殖腺刺激物質及び PGの使用	T. Imori
09:50-10:35	続き	
11:00-11:45	性周期期の調整	R. Gatica
11:50-12:35	続き	
14:30	実習	R. Gatica
11月20日 木曜日		
09:00-10:00	細菌性伝染病	J. Zamora及び X. Rojas
10:15-11:15	乳房の伝染病	J. Kruze
11:30-12:30	ウィルス性伝染病	G. Reinhardt S. Riedemann
14:30-15:30	細菌性伝染病研究施設	X. Rojas J. Zamora
15:45-16:45	乳房炎研究施設	J. Kruze
17:00-18:00	ウィルス性伝染病 研究施設	S. Riedemann G. Reinhardt
11月21日 金曜日		
09:00-09:45	家畜における受精卵の 移植	T. Sugie
09:50-10:35	続き	
11:00-11:45	授精卵移植実演	T. Sugie
11:50-12:35	続き	
14:30-18:00	繁殖病理学試験	R. Gatica
11月22日 土曜日		
10:00-09:45	バイオテクノロジー	M. Del Campo
09:45-10:35	続き	
11:00-11:45	実演(授精卵研究室)	M. Del Campo
11:45-12:35	続き	
11月23日 日曜日		
	休日	

日	時間	演題	講師
11月24日 月曜日			
09:00-09:45	産科解剖学	L. Vargas	
09:50-10:35	子宮の薬理学	O. Bustos	
11:00-11:45	出産時の麻酔及び鎮静剤	F. Ahumada	
11:45-12:35	分娩の生理及び仕組み	P. Saelzer	
14:30-18:00	分娩問題に関する映画	P. Saelzer	
11月25日 火曜日			
09:00-09:45	分娩の病理学	P. Saelzer	
09:50-10:35	続き		
11:00-11:45	分娩試験	J. Ebert	
11:45-12:35	帝王切開及び胎児切断術	P. Saelzer	
14:30	ちっ閉塞及び帝王切開事例実演	P. Saelzer	
11月26日 水曜日			
09:00-09:45	産科学的修正	J. Ebert	
09:50-10:35	強制摘出	J. Ebert	
11:00-11:45	新生動物の先天性病理	V. Cubillos	
11:45-12:35	分娩の計画 実技	P. Saelzer	
14:30	グループA: 帝王切開及びちっ閉塞 グループB: 切胎術 グループC: 自由時間又は図書館	P. Saelzere	
11月27日 木曜日			
09:00-09:45	産後と其の取り扱い	P. Saelzer	
09:50-10:35	続き		
11:00-11:45	新陳代謝特性及動物繁殖	F. Wittwer	
11:45-12:35	続き 実習		
14:30	グループC: 帝王切開及びちっ閉塞 グループA: 切胎術 グループB: 自由時間又は図書館	P. Saelzer	

11月28日 金曜日

09:00-09:45  
09:50-10:35  
11:00-11:45  
11:50-12:35

演題

産後の病理  
続き  
栄養及び生殖能力  
続き  
実技

講師

P. Saelzer  
W. Stehr

14:30

グループB: 帝王切開  
及びちつ閉塞  
グループC: 切胎術  
グループA: 自由時間  
又は図書館

P. Saelzer

11月29日 土曜日

09:00-09:45  
09:50-10:35  
11:00-11:45  
11:50-12:35

チリにおける人工授精の  
組織  
肉の生産における後代検  
定の遺伝学的基礎  
家畜人工授精センターに  
おける試験の組織  
続き

J. Ehrenfeld  
C. De Veer  
M. Herve

11月30日 日曜日

自由時間

12月1日 月曜日

09:00-09:45  
09:50-10:35  
11:00-11:45  
11:50-12:35  
14:30-18:00

雄試験及び機能試験の根  
拠  
性欲障害  
雄の遺伝性病理  
雄の後天性病理

J. Ehrenfeld  
J. Oltra  
J. Oltra  
J. Ehrenfeld

グループA: 実技1機能  
試験及び雄の臨床試験  
グループB: 実技2精液の  
生物試験

12月2日 火曜日

09:00-09:45

09:50-10:35

11:00-11:45

11:50-12:35

14:30-18:00

演題

精液保存基地  
精子生存に影響する諸  
要素  
小型試験管に依る精子  
処理実演  
続き

グループA: 実技2 精液  
の生物試験  
グループB: 実技1 機能  
試験及び雄の臨床試験

講師

C. Hellemann

C. Hellemann

C. Hellemann

12月3日 水曜日

09:00-09:40

09:45-10:35

11:00-11:45

11:50-12:35

14:30-15:15

15:15-16:30

16:30-18:00

精子移動  
牛の精液の取り扱い  
人工授精受胎率に影響す  
る諸要素  
続き

保存稀釈液の作成、希釈  
液分析  
精液凍結実演  
人工授精、精液取り扱い  
実習

H. Takamine

C. Hellemann

J. Oltra

12月4日 木曜日

09:00-10:30

11:00-11:45

11:00-12:35

14:30-16:30

16:30-18:00

搾乳調整の根拠  
繁殖牛乳生産試験  
雌牛分類

人工授精及び精液取り扱  
い  
実習。雄臨床例分析

G. Stolzenbach

C. De Veer

J. Sanchez

12月5日 金曜日

18:30

各種雌牛の分類(実技) J. Sanchez

12月6日 土曜日

09:00-12:35

セミナー発表

参加者

12月7日 日曜日

休日

12月8日 月曜日

12月9日 火曜日

06:00  
06:00  
07:30  
10:30  
13:00  
15:00

南部へ研修旅行  
出発  
乳牛牧場見学  
牛乳プラント見学  
オソルノで昼食  
肉処理プラント見学  
オソルノで宿泊

12月10日 水曜日

08:00  
10:00  
12:00  
14:30  
15:30  
16:00

朝食  
フリソナ種牛牧場見学  
プエルト、バラスで昼食  
フリソン、ロホ種牛牧場見学  
養魚場見学  
付近観光  
ジャンキウエで宿泊

12月11日 木曜日

08:00

朝食  
チロエに出発  
農場見学  
海洋牧場見学  
アंकに宿泊

12月12日 金曜日

バルディビア帰着

12月13日 土曜日

12:00  
13:00

閉講式及び終了証書授与  
閉講記念昼食会

I. 日本人講師, J I C A (国際協力事業団) 専門家

- Imori, T. 大阪府立大学名誉教授  
チリ国アウストラル大学客員教授
- Kanemaki, H. 家畜改良事業団家畜改良技術センター血液型検査課長
- Sugie, T. 宇部宮大学農学部教授  
家畜改良事業団顧問
- Takamine, H. 東京農工大学名誉教授  
チリ国アウストラル大学終身教授

II. 獣医学部教員

1. 家畜繁殖研究室

Correa, J. E.  
Del Campo, H.  
Del Campo, M.  
Ebert, J.  
Gatica, R.  
Saelzer, P.

2. 家畜人工授精センター

Ehrenfeld, J.  
Hellemann, C.  
Oltra, J.  
Sanchez J.

3. 畜産技術研究室

De. Veer, C.  
Herve, M.  
Stehr, W.  
Stolzenbach, G.  
Vargas, L.

4. 家畜病理学、薬理学研究室

Ahumada, F.  
Bustos O.  
Caballeros, E.  
Cubillos, V.  
Fiedler, H.

5. 畜産臨床化学研究室

Wittwer, F..

I I I. 理学部

1. 細菌学研究室  
Kruze, J.  
Reinhardt G..  
Riedemann, S.  
Rojas, S.  
Zamora, J.







JICA